

事業計画書

(令和5年度)

社会福祉法人 博愛会

2023年度博愛会事業計画の策定に当たり

法人理念の「笑顔と安心の輪を広げる」を実現し、利用者の皆様に質の高い介護等を利用していただくため、次のとおり、これまで以上に組織の見える化を推進しつつ、適正な人材の確保と財政の健全化に全力を傾注してまいります。

世界は今、新型コロナウイルス感染症の終息が見込めない中、昨年2月のロシアによるウクライナ侵攻もあり、米中対立は一層先鋭化し、世界的な食糧危機、経済の不透明化が進展するなどグローバル化の停滞は避けられない状況です。

一方、国内は、円安が進む中、物価高が収まる様子もなく、スタグフレーションへの突入も懸念されます。また、いわゆる「骨太方針2023」に防衛費増額や異次元の少子化対策が盛り込まれるなど、社会保障費に配分される財源の確保は非常に厳しい状況になることが想定されます。

このような状況の中、法人運営費の大半が公費で賄われる博愛会では、生産性の向上を図りながら財源の健全化に努めつつ、将来にわたって質の高い介護等を安定的に提供するため、若手職員の離職の防止に努めながら、人間性の豊かな職員を育成し適正な人材を確保しなければなりません。

若手職員の離職率が高い理由として、賃金や労働時間等雇用環境の低さ、キャリアアップの不透明さなどが指摘されています。

このため、令和4年度は、キャリアアップを明確化する仕組みや、最新テクノロジーの導入等による生産性の向上、時間外勤務の抑制の取組みのほか、新型コロナウイルス感染症で休暇をとらざるを得ない休暇を有給化するなどして福利厚生の充実にも取り組んでまいりました。

また、働きながらプライベートも充実させたいと考える傾向が若年層に多くみられることから、私生活の側面からの支援にも配慮するとともに、価値観の多様性に最大限配慮しながら、働き甲斐のある職場環境の改善に向け不断の努力を重ねてまいりました。

令和5年度は、これまでの取組みのほか、業務上必要な資格を取得する際に係る費用を助成するなど、業務への意欲向上への取り組むとともに、より専門性の高い介護等を提供することとしております。

財政の健全化につきましては、令和4年度の収支状況は、新型コロナウイルス感染症に起因する、通所介護事業所等の利用者離れに加え、光熱費等の高騰等もあり、前年度から回復傾向にはありますが、依然、厳しい状況が続いております。

令和5年度は、公平性を担保した給与制度への更なる見直しや、正職員とパート職員の人員の適正化等を推進し、財源の確保を図りながら、職員の納得感、モチベーションの維持、向上に努めることとしています。

引き続き、地域共生社会実現の一翼を担う、箕蚊屋地域の福祉の拠点として、職員の皆さんには「博愛会で働いてよかった」、利用者の皆さんには「博愛会を利用してよかった」と感じてもらえる法人として認めていただけるよう、楽しく安心して働ける職場づくりに邁進する所存です。皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和5年4月1日

社会福祉法人博愛会
理事長 安田 明文

部門	①高齢福祉部 特養	氏名	中澤、森本、田中
----	-----------	----	----------

(これまで)	(これから)
<p>1. ケアの質の向上</p> <p>①ユニットケア実施研修施設基準項目 93 項目の取り組み強化</p> <p>今年度、93 項目中 24H シートの活用・食事について・排泄についての 17 項目に取り組みを行った。17 項目中 12 項目達成となっているが、ユニット会議内でユニットケアについて話し合えていない。また、コロナ感染の影響もありユニットケア会議も開催できない月もあり、各ユニットの取り組みや進捗状況を話し合う機会は少なかった。</p> <p>②レクリエーション活動の充実</p> <p>コロナ感染のため中止となった行事もあるが、感染予防対策を行ない概ね実施できていた。限られた人数ではあるが外出も行うことが出来た。ただし、ユニットによって開催回数に差があった。</p> <p>③次期リーダーになる人材の育成</p> <p>定期的に新人職員の振り返り・面談を行った。個人目標の確認は主任が行っているが、個別に面談の時間を作るのが難しく、業務の隙間時間に各職員との話し合いを行った。</p> <p>キャリアパス研修に 5 名参加（内 1 名は 2 月に参加予定）できた。</p> <p>ユニットリーダー研修に 1 名、認知症リーダー研修に 1 名参加。</p>	<p>1. ケアの質の向上</p> <p>①ユニットケア実施研修施設基準項目 93 項目の取り組み強化</p> <p>課長・主任がユニットケアについての理解を深め、ユニット会議で職員にユニットケアを行う意味を説明していく。現在できていない項目や進捗状況についてユニットケア会議や主任課長会議で報告を行い全体で改善の取り組みを行っていく。</p> <p>②レクリエーション活動の充実</p> <p>各ユニットでの定期的な行事は継続し企画、実施する。又、入居者様の希望に沿った個別の取り組みも重視していく。今後はコロナ 5 類移行の状況、社会情勢も踏まえ合同での行事や他部署との交流を増やしていく。</p> <p>③人材育成</p> <p>キャリアパス研修・ユニットリーダー研修・認知症研修・その他の専門研修に積極的に参加を行う。初任者研修・実務者研修・介護福祉士・介護支援専門員資格取得に向けて積極的な声掛けと勤務調整を行う。</p> <p>主任・ユニットリーダーと定期的な面談を行いユニットの課題や主任の相談の助言を行う。</p>

<p>2. 安定した経営の確保</p> <p>①特養及びショートステイにおける稼働率の向上 入居申し込みに合わせて、随時更新を実施（計23回）面談対象となりそうな方には随時連絡し、状況確認した。コロナ感染症の影響もあり、待機者常時5名のリストアップがスムーズにいかず、空床日数を最小限に抑えることが出来なかった。</p> <p>ショートステイは稼働率11月78.6%12月50.9%とコロナ感染症の影響あり目標未達成。その他の月は概ね85%達成している（事業所からの新規、緊急ショートの間い合わせについても、空床があれば随時対応）。又、定期的にHP空床状況の更新、居宅事業所や米子市への情報提供を実施している。</p> <p>②各種加算の取得 褥瘡ケアマネジメント加算について9月送信分で3名の過誤があり返礼処理を行った。その後は毎月加算や送信情報について3課長で確認を行っており過誤は見られていない。職員がより理解できるよう、スムーズに計画書が作成できるようにマニュアルの見直しを行った。排泄支援加算Ⅰについては問題なく加算取得ができています。 10月からベースアップ加算を取得している。</p>	<p>2. 安定した経営の確保</p> <p>①特養及びショートステイにおける稼働率の向上 特養入居候補者を常時3名以上確保し、退居後速やかに入居し空床期間の短縮を図る。</p> <p>ショートステイ稼働率85%以上を維持できるよう、他居宅事業所への空床状況提供と米子市HPへの空床情報提供を行う。</p> <p>②各種加算の取得 専門職と各計画書の評価と見直しを行い確実に加算を取得していく。</p>
<p>3. 介護サービスにおける生産性向上</p> <p>①介護ロボット・ICT機器を活用 10月よりインカム導入となったが、上手く活用できていない状況。iPodのラインワークスについては活用ができており全ユニットに必要な情報の共有ができています。また、入居者の怪我・褥瘡の記録やイベントやショート利用者の荷物確認時の写真に活用ができています。介護ロボット・ICT機器活用についての情報収集を継続して行っている。</p>	<p>3. 介護サービスにおける生産性向上</p> <p>①介護ロボット・ICTを活用 インカム・iPod・音声入力を使用し業務の効率化を図る。介護ロボット・ICT機器活用についての情報収集を継続して行っていく。</p>

その他

部門	② 看護課	氏名	金澤 直江
----	-------	----	-------

(これまで)	(これから)
※各部署が計画した、令和4年度事業計画の達成度等を記載してください。	これまでをどのように振り返り、各部署の令和5年度の事業計画を立案したのか、記載してください。
<p>1 専門職の役割を發揮し介護と協働する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止 <p>ノロウイルス・インフルエンザ・感染性胃腸炎の感染症の発生はない。しかしコロナの市中感染が拡大する中職員が濃厚接触者・感染者となった。さらにコロナウイルスのクラスターが発生し入居者様・職員に感染が急拡大した。感染対策の指導や、早期内服治療を行い入居者様の重症化は防げた。今後コロナの社会動向を確認しながら予防に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止 <p>引き続き感染対策の基本に立ち帰り手洗いの励行に努める。熱発者・嘔吐・下痢症状が出た場合、インフルエンザやコロナ、ノロ等の感染を疑い、早期に抗原定性検査を行う。集団感染の危険性から個室対応やガウンテクニックを実施し経過観察を行う。他の入居者様の体温の変動および一般状態に注意する。感染拡大が起こり、入居者様全員が個室隔離となり行動制限が起こらないように早期発見、早期対応、早期治療に繋げる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡加算取得のため発生予防に努める <p>介護職員と連携し早期発見・早期治療につながるよう日常の観察を密にした。ユニット内でのコロナ濃厚接触者・感染者の発生により感染予防のため入居者様は居室対応時間が増え、離床時間の短縮を余儀なくされ新規褥瘡発生のリスクにつながった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡予防 <p>高齢者の褥瘡は身体機能的にタンパク質の低下や消化吸収の衰えによって褥瘡が発生しやすく根治が難しい。その為褥瘡の発生予防に力を入れる。経管栄養の入居者様には除圧・ずれを解除し注入を行う。食事摂取量や体重、入浴時における皮膚状態、拘縮におけるポジショニング、離床、車いす乗車時のシーティング等に配慮し多職種と連携し情報共有する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランカンファレンスに参加する。 <p>施設ケアマネジャーの調整によりほぼカンファレンスに参加でき多職種との情報交換が行えてプランの検討とケアの統一が図られている。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合った口腔ケアの徹底と最期まで食べる事へのかわりを持つ。 <p>入居者様の個々の歯式や、歯ブラシの方法、ブラシの使い方等と指導する。定期的に口腔内のチェックを行い治療の必要性がある方は歯科往診へと繋げた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合った口腔ケアを実施し食べる事へのかわりを持つ。 <p>口腔内の異常の早期発見、早期治療を行いできるだけ経口摂取を継続させる。</p>

部門	③デイサービスセンター博愛苑	氏名	遠藤 優介
----	----------------	----	-------

(これまで)	(これから)
<p>1 経営基盤の確立</p> <p>今年度は、定期的に他事業所の居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターを訪問し、営業活動を実施した。結果として、令和4年4月から令和5年2月までに31名の新規利用者を獲得した。</p> <p>一方、新型コロナウイルス感染による休業が令和5年1月までに計8日発生し大きな収入減となった。入院、永眠等もあり、延べ利用者数は11月をピークに減少している。</p> <p>また、加算による取得は「入浴介助加算Ⅱ」「口腔機能向上換算Ⅱ」を算定し、増収に繋げている。</p> <p>共生型については、デイサービス職員と協働し利用者の支援を実施。10月からは、共生型は独立したが、体操や入浴等は引き続き協働支援を実施している。</p>	<p>1 経営基盤の確立</p> <p>次年度は、収益につなげるため、各居宅介護支援事業所等への訪問を継続し、利用申し込み件数を増やす。目標として、月の延べ利用者数900名以上を目指していく。</p> <p>入浴介助加算Ⅱ及び口腔機能向上加算Ⅱの取得者を増やす。</p> <p>また、要支援の方に加算できる「事業所評価加算」が令和5年度は取得可能となった為、維持できるよう総合事業対象者の方の状態をしっかりと見極めて対応していく。</p> <p>営業活動及びサービス内容を見直し総合事業を月～金まで実施し、利用定員5名を確保する。</p>
<p>2 職員の能力向上及び職場環境の整備</p> <p>職員の意見を踏まえ、ホール対応や入浴等業務全般の見直しを実施。都度ミーティングや連絡ノートを活用し業務改善、情報共有を実施した。</p> <p>また、アイポッドやインカムを使用し効率的に業務や情報共有ができるようになった。</p> <p>職員勉強会は昨年度の反省を踏まえ、四半期に1度実施。認知症、高齢者の疾患、救急救命対応を学習し、知識及び能力向上を図った。</p> <p>職員とは普段の関りや面談等を通し自身の良い所、課題を明確にし資質の向上や、心身負担軽減を図った。</p> <p>一方で新型コロナウイルス感染や家族の看病、職員の人事異動等で職員数が不足し業務調整に苦慮している。</p> <p>また、子育て等で短時間業務の職員も多く、予定通りの勤務が徹底できるようにしなければならない。</p> <p>有休休暇は各自使用できている。</p>	<p>2 職員の能力向上及び職場環境の整備</p> <p>サービスの質の向上と効率化を引き続き行う。</p> <p>そのためには、優先度の高い項目(入浴、送迎等)を重点項目とし、定期的に取り組み業務の見直しや効率化をさらに進め、職員の負担軽減を図る。</p> <p>職員の心身負担軽減と各感染症防止の徹底を図る。</p> <p>そのためには、職員間での傾聴と指摘、改善行動を重ね、職員の心身負担の軽減と、より良い関係を構築していく。</p> <p>また、予定勤務通りに勤務出来るように、体調管理や定期的な有休休暇の取得、各感染症防止対策の徹底を図る。</p>

<p>3 利用者及び家族との関係作りの充実</p> <p>行事やレクリエーションを、これまでの企画書事前提出を廃止し、職員負担を軽減した。また、ハロウィン仮装大会や日々のレクリエーション等、これまで実施していなかった新たな取り組みを行い、利用者の方の楽しみを増やした。</p> <p>情報発信については、定期的にブログを更新。毎月の他事業所訪問時も、ブログ内容をピックアップし営業ツールとして活用した。</p> <p>緊急時の連絡は、アプリは導入していない。理由として費用と、対象となる家族様がアプリのダウンロードや操作、情報確認が徹底できないと判断し導入は取りやめた。</p> <p>緊急時の連絡は電話で対応した。</p>	<p>3 利用者及び家族との関係作りの充実</p> <p>利用者及び家族は勿論のこと、職員自身もデイサービスが楽しいと感じて頂けるように、レクリエーションや行事の見直しを引き続き行う。</p> <p>昨年度好評であった行事は継続して行い、計画として毎月の行事を事前に決定する。</p> <p>また、デイサービス職員同士の協力やフォローにより、人間関係も業務も円滑に行っていく。(他部署からもデイサービスで働きたいと思ってもらえるような部署としたい)</p> <p>その他、ブログ更新の徹底と、新型コロナウイルス関連では、今後は、事業休止はせず、連絡対応していく。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

その他

部門	④リハビリテーション室	氏名	木村保子
----	-------------	----	------

(これまで)	(これから)
<p>※各部署が計画した、令和4年度事業計画の達成度等を記載してください。</p>	<p>これまでをどのように振り返り、各部署の令和5年度の事業計画を立案したのか、記載してください。</p>
<p>1 介護保険改正に沿って、加算報酬算定を確実に行う</p> <p>自宅での入浴自立を図る為に介護支援専門員・福祉用具専門相談員、介護職員らと連携し、福祉用具の貸与・購入・住宅改修等の浴室の環境整備など係る助言を行った。</p> <p>自宅浴室を模して入浴動作が行えるように、浴室の環境調整行い、洗身洗髪、衣類着脱など出来る事はご利用者様自身に行っていただき、自立支援を促している。正確な実績管理、担当者不在の際でもLIFEへの出力ができるような体制ができつつあり、加算報酬を増やすことが出来てい</p>	<p>1 利用者を増やし、加算報酬算定を確実に行う。(個別機能訓練加算 入浴介助加算Ⅱ 口腔機能向上加算 口腔栄養スクリーニング加算 褥瘡マネジメント加算・排せつ支援加算)</p> <p>利用者の自宅入浴の自立を図る為に、カンファレンスへの参加・家屋訪問する機会を増やし介護支援専門員・福祉用具専門相談員、介護職員らと連携し、福祉用具の貸与・購入・住宅改修等の浴室の環境整備など係る助言を行う。自宅の環境に合わせてデイサービスでも入浴行えるように、介護職員と情報共有を行う。デイサービスでは重症者の入浴が難しく、臥床入浴用ストレッチャーを活</p>

<p>る。</p> <p>利用者等ごとに褥瘡の発生と関連のあるリスクについて、医師、看護師、管理栄養士、介護職員、介護支援専門員その他の職種が共同して、褥瘡管理に関する褥瘡ケア計画を作成し、厚生労働省に提出することが出来ている。福祉機器の確認を行い、ベッド上及び車いす上の姿勢を整え、食事や体操などの活動が行いやすいように調整できている。全入所者から褥瘡マネジメント加算・排せつ支援加算算定し、褥瘡発生時のカンファレンスがスムーズに行えている</p>	<p>用し、安楽な入浴が行えるように方法を情報共有していく。</p> <p>コロナ第5類への変更後のリハビリテーション室の動き方を踏まえ、担当不在時の書類作成・LIFE送信が確実に出来るようマニュアル作成・伝達を行い確実な算定に繋げていく。</p> <p>口腔機能向上加算 口腔栄養スクリーニング加算が確実に算定できるように、看護職員・歯科衛生士・介護職員と連携し体制を整える。</p> <p>入所者等ごとに褥瘡の発生と関連のあるリスクについて、医師、看護師、管理栄養士、介護職員、介護支援専門員その他の職種が共同して、褥瘡管理に関する褥瘡ケア計画を作成する。厚生労働省に提出し、支援に当たって情報等を活用し、支援を継続して実施します。ベッド上及び車いす上の姿勢を整え、食事や体操などの活動が行いやすいようにしていく。</p> <p>褥瘡を予防する環境作りとして、グローブを活用した効果の高い圧抜きの徹底、福祉機器の確認を行う。</p> <p>排せつに介護を要する入所者等ごとに、要介護状態の軽減の見込みについて、医師又は医師と連携した看護師が施設入所時等に評価を行い、結果等を厚生労働省に提出し、排せつ支援に当たって情報等を活用し、それに基づいた支援計画を作成し、支援を継続して実施する。</p>
<p>2 他施設や苑内での連携をとり、科学的介護を推進する</p> <p>①ご利用者の活動性の向上</p> <p>レクリエーション活動にリハビリテーション室も関わる体制が出来、作品作りの頻度が増え、ご利用者様に喜んでいただく事で新規利用者が増えるきっかけになっている。ご利用者様が昔関りが深かった綿繰り作業を体験導入した。今後、綿繰り作業にもHAKを配布する事で役割作り、活動性向上と社会参加へのきっかけづくりになると思われる。通所で、脳トレは、さらに様々な好みの問題をして頂く体制が出来た。ペーパーロー</p>	<p>2 リハビリテーション室の体制確立</p> <p>① 利用者の活動性の向上と介護技術の向上</p> <p>入浴、排泄、移乗、食事など日常生活場面に介入する事で、介護技術を伝達し知識を共有し、職員とご利用者がお互いに安楽な介護をすることで、ご利用者の機能維持向上と職員全体のレベルUPに繋げる。ご利用者の活動性が向上し在宅生活ができる心身機能の維持できるよう、楽しめる活動を増やす。回想法・作品作りは介護職員と連携して行い、心身機能に働きかけることが出来る内容になるように工夫する。</p> <p>多職種間で話し合いを行ったうえで計画書を作</p>

<p>ルアートやカレンダー作り等、時間をかけて行う大作も継続して取り組んでいただいた。</p> <p>① 職員ご利用者共に安楽で機能維持できる介護技術の習得</p> <p>ご利用者の機能維持向上につなげる日常生活場面に介入し、ご利用者様の能力を活用し、職員が安楽な方法を実際に行いながら伝達継続している。グループホームの、起き上がりや移乗動作に介入した。介護技術が向上したことにより、腰痛の発生が少なくなり職員の他部門移動の際の心身負担も少なくなってきたと考える。職員間で話し合いを行い、情報共有し、計画書を作成し、ポイントを全職員に伝達する体制ができ、習慣化しつつある。通所では脳トレの採点や準備に時間を要していたが、方法を変更する事で、ご利用者様の自己採点を促し、ご利用様の自立支援と職員の負担軽減することが出来た。共生生活介護のご利用者様についての、入浴姿勢の調整や、パン販売での袋詰めがスムーズに行えるように環境設定を行った。生活介護の職員に通所での福祉用具などを用いた介護に積極的に関わっていただき、障害部門で介護技術の意識向上を促した。</p> <p>② リハビリテーション室の体制確立</p> <p>口腔機能向上加算を歯科衛生士・看護職員と共同して計画書作成し管理・実施を行えた。職員の負担軽減を図れるよう、評価や運動プログラム作成のアプリの検討等、業務の見直し・効率化を行った。総合事業では、ご利用者に対し、「熱中症について」の勉強会を行った。リハビリ特化型デイサービスの開始に向けて、機械等の検討や見学を行った。YMC A米子医療福祉専門学校 PT 科3年生1名の見学実習生の受け入れを行い、社会福祉法人としての役割を果たした。</p>	<p>成し、ポイントを全職員に伝達する体制を作り、ご利用者様に機能活用して活動して頂く事で機能維持、職員の腰痛予防、事故防止に繋げる。</p> <p>高齢者に馴染みのある綿繰り作業などを行い、地域交流・地域産業に貢献する事で意欲を向上し、在宅生活が維持できる心身機能の維持向上を目指す。時間をかけて行う作品作りや回想法など認知機能にも働きかけた訓練を行い、活動性向上を図る。HAKを活用することで、役割作り、楽しみと目標を持って生活できるように促していく。サービスの質の向上と業務の見直し・効率化し、職員の負担軽減を図る。</p> <p>① 多職種との連携と業務改善</p> <p>法改正に向けて情報収集を行う。今年度でがいなみつくが終了となり、総合事業も大きく変更になる可能性があり、情報収集対応する。</p> <p>リハビリ特化型デイサービスの開始を念頭に置きながら、フレイル予防に関わり、公民館活動への介入を行い、地域の方と馴染みの関係になる事で、よらいやなど博愛苑への利用に繋げる。</p> <p>短期入所と通所介護の併用利用者については、引き続き、必要時に介入する。依頼があった際には、グループホームやときぞうにも介入し、利用者様やご家族の満足度向上を目指す。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

その他

部門	⑤グループホームみのりの里	氏名	長瀬 由卓
----	---------------	----	-------

(これまで)	(これから)
<p>※各部署が計画した、令和4年度事業計画の達成度等を記載してください。</p>	<p>これまでをどのように振り返り、各部署の令和5年度の事業計画を立案したのか、記載してください。</p>
<p>1 経営基盤の確立</p> <p>今年度は、稼働率が99%以上を目標としており、99.6%・100%と上回った結果となった。</p> <p>第1四半期では、1名の方が特養への入所が決まり、その後、速やかに1名の方の新入所となった。第2四半期では、7月頃より入居申し込みの問い合わせが増え、申込者数が13名となった。入居者については、体調も安定しており、入退所はなかった。第3四半期では2名の方が入院となった。原因は心不全と転倒による骨折であった。また、看取り対応へ移行された方が1名おられた。</p> <p>空床が出る可能性もあった為、入所待機者への面談を実施し次の入所に向けて入所判定会議を実施した。空床が出た場合に速やかに入所ができるよう体制を整えた。</p> <p>加算を継続する為にも、認知症介護実践リーダー研修に職員東が参加した。</p> <p>新型コロナウイルスの関係で外出等外部との関わりが開催できなかった時期もあったが、コロナ禍でもグループホームとしての役割を考え感染対策を行いながら外出支援を行った。また地域活動に力をいれて係が中心となり公民館への作品展示や地域の方々との共同作品の実施ができた。</p> <p>経費削減については、脱炭素化やコロナウィルス感染症による影響もあり価格の高騰や食品に関しても値上げが続いた。社会的な影響もあるが施設内で行える節電の意識を職員に持ち、電気・エアコンの切り忘れがない指導を行った。グループホーム会議でも光熱費の使用量と料金の比較</p>	<p>1 経営基盤の確立</p> <p>昨年度はコロナ禍で外出を控える事が多くなり在宅におられる方の認知症の進行と思われる一時的な入所申し込みに繋がったと推測する。</p> <p>次年度は、コロナウィルス感染症の対応も社会的に緩和されていく中で高齢者も外出の機会が増える事で認知症の進行が抑えられ、入所申し込み件数もコロナ禍以前に戻る事も予想される。その為、定期的な各居宅介護支援事業所等への積極的な連絡を行い、入所申し込み件数を増やし、空床期間を短縮し、収益につなげるため、随時5名の入所待機者を確保していく。</p> <p>地域との関わり方を考え、コロナ禍以前の活動が行えるように感染予防に取り組みながら行える行事や地域活動を実施していく。</p> <p>個別ケアも実施できるよう取り組みを行う。</p> <p>支出について、職員全員で意識統一が必要であり、定期的に経費（水道光熱費、事務消耗品費等）を示し、職員の意識を高め、節約を進めていく。</p> <p>食材については、定期的なメニュー表の検討を行い、食材費の料金を昨年度と比較しながら冷凍食品の発注数を抑えたり、必要により冷凍食品から手作りで行えるメニューへの変更等を実施する。</p>

<p>を行い、節電意識を高めた。</p> <p>食材費について、例年と比べると金額が高くなる見込みがありメニュー表の検討を行い食材費の高騰を抑えた。</p> <p>ガスについては夜間帯のつけっぱなしを無くし節電に努めた。</p>	
<p>2 職場環境の整備</p> <p>第1四半期では入居者と多くの時間を持つ事ができるよう掃除内容についてあそしえに相談を行い決定した。その結果、関わる時間を多く持つ事が出来た。</p> <p>予定勤務通りの勤務となるように、休みが多い職員には体調管理について個別に相談した。</p> <p>サービスの向上に向けて職員間のコミュニケーションを増やし効率よく業務に取り組めるよう都度周知した。事故に対しての再発防止策の振り返りを実施しサービスの質の向上及び事故防止に努めた。また、グループホームとしての役割を考え第三四半期より外出支援も含めて生活支援を行うよう周知した。</p> <p>業務に関して、職員の相談に乗り、ユニット内で改善できないか話し合いを行った。職員の働く時間帯によって業務の偏りがあったが、改善できた。</p>	<p>2 職場環境の整備</p> <p>サービスの質の向上と効率化を行う。</p> <p>入居者との関わりを持つ時間を増やし、業務の見直しや記録時間の短縮等の効率化を定期的に考え、職員の負担軽減を図る。</p> <p>また、インカムやタブレット・iPod を効果的に活用しユニット間との連携を図る。</p> <p>施設内研修について、「認知症」と「看取り」について事業計画で実施期間を設定し適切に行えるようにする。</p> <p>職員の心身負担軽減と各感染症防止の徹底を図る。</p> <p>そのためには、職員間での傾聴と指摘、改善行動を重ね、職員の心身負担の軽減と、より良い関係を構築していく。</p> <p>また、体調管理や定期的な有休休暇の取得、各感染症防止対策の徹底を図り、予定勤務通りに勤務すること、そして時間外を減らし心身の負担の軽減を行う。</p>
<p>3 グループホームの目的に沿った生活支援の徹底。</p> <p>行動指針に対して必ず実践に達成できるよう職員個々で2ヶ月間の目標を立てて取り組んだ。取り組んだ目標に対しての助言を主任・課長から行った。入居者において、現在できる事だけではなく、出来ていない事もできるようになる事がないか等を検討し担当者意識を持ってもらえるように取り組んだ。</p> <p>課題として、現状行っている事をより充実させる為の目標設定となっている事が多かった。取り</p>	<p>3 グループホームの目的に沿った生活支援の徹底</p> <p>次年度においても、グループホームの目的である「共同生活」が十分にできるよう改善を図る。日常生活上の機能訓練をより広げ、入居者と職員で、掃除、調理、洗濯等を担っていただき「人の役にたっている」と実感してもらう生活を目指す。</p> <p>職員個々が目標を持って入居者と関わり、行動指針に沿ったケアを実施する。</p> <p>また、入居者で要介護3以上の方のご家族には現在の状態や今後介護度が上がる可能性等について</p>

<p>組みの結果、現状維持で終わってしまっていた事もあり効果としては少なかった。</p>	<p>ケアプラン説明時などにお話しを行い、家族の意向も踏まえ、必要時には、特養等への入居申し込みの案内も併せて実施する。</p>
<p>4 家族との関係作りの充実</p> <p>みのりの里だよりの発行を2ヶ月毎に行い、家族への情報提供や日頃からLINEも活用し軽微な事柄については報告や情報交換を実施した。</p> <p>また、居室担当がLINEを活用し動画を撮ってご家族に動画を送った。</p> <p>面会については法人の対応に準じて対応をおこなった。面会が緩和された際にはアクリル板越しで面会される家族も多く対面する事で笑顔も多くみられていた。オンライン面会も普段から定期的に利用されるご家族も多く、要望に応じて対応を行った。また、コロナウィルスの感染状況や検査状況等LINEを活用する事ですぐに周知が行う事が出来た。</p>	<p>4 家族との関係作り</p> <p>今後も、情報発信を続け入居者や家族の方お互いに、状況把握し安心して生活していただける様、支援を続ける。</p> <p>特に、LINEの活用幅を広げ、写真や動画の送付を行い、さらに様子が分かるようにする。</p> <p>また、事故発生時や入居者が普段と違う異変や受診の検討が必要な場合には、ご家族へ報告し情報を共有することで早期対応に繋げる。</p>
<p>5 地域との交流</p> <p>コロナ禍での地域交流は公民館や保育園に連絡しプランターの設置を行った。また、みのりの里の苑内に入居者の作品を飾り、観ていただけるように展示した。</p> <p>運営推進会議について5月は開催したが、7月、9月は書面開催とした。11月には通常通り開催した。</p> <p>地域活動係が中心となり、地域の人とつながりを持つために苑内に新聞を作成し目に触れるように貼り出した。また、12月には公民館へ入居者が作成した年賀状を送った。</p>	<p>5 地域との交流</p> <p>グループホームとして入居者の地域社会との関わり方を検討し、新たな交流を増やしていく。</p> <p>また、以前交流していた、保育園やボランティアの方と連絡を取り、これまでの関係を継続させる取り組みも行っていく。</p> <p>運営推進会議では、運営推進会議メンバーによる外部評価を実施し、みのりの里の現状を知っていたきながら評価を実施する。</p>

その他

(部門) ⑥地域包括支援センター	(担当) 渡邊 久美子 (R4.2.7 現在)
～これまで	これから～
<p>1 担当圏域地域ケア会議の開催。 年間 計 11 回 箕蚊屋地域ケア会議 2 回 〃 準備会 4 回 個別地域ケア会議 5 回 県地区地域福祉推進会議 1 回 米子市自立支援型地域ケア会議 2 回</p> <p>・箕蚊屋地域ケア会議（地域ケア推進型会議） 今年度も自治会長会にて参加呼びかけを行い、各自治会長の参加を得て、2 地区（巖・大高）毎に開催。春日地区については、準備を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大時期であったため、延期する。春日地区については、3 月 11 日に開催で計画を進めている。2 地区とも、地域の方々を絡め準備会を開催し、テーマ、役割分担などを検討。開会・閉会挨拶等を地域住民に担当してもらうことができた。新型コロナ禍の中、人数制限など感染予防に配慮しながら行った。振り返り会は、新型コロナウイルス流行により、開催を見合わせている状態。会議後議事録、アンケートを参加者に配布行う。</p> <p>県地区については準備会に参加する。今後について県地区から連絡をもらうこととなっており、連絡あった時点で対応を行う。</p> <p>(達成率：110%)</p>	<p>1 担当圏域地域ケア会議の開催。 年間 10 回開催予定 (準備会・振り返り会を含まない)</p> <p>・地域ケア推進会議：前年に続き、各自治会長会にて参加呼び掛けを行い、自治会長の参加の増加を目指す。従来通り、地区毎に開催。準備会を開催し、テーマを含め検討し、地域住民の主体性を引き出しながら、実情にあった会議を目指し開催する。更に振り返り会を開催し、次回の地域ケア会議につなげる。</p> <p>(箕蚊屋地域ケア会議 4 回)</p> <p>・個別地域ケア会議 (4 回) 認知症、虐待ケース等支援困難ケースに対し行う。</p> <p>・自立支援型地域ケア会議：R3 年度に続き、米子市・7 包括で取り組む。包括が持ち回りで、事例提出を行う。(2 回)</p>
<p>2 自立支援に資するケアマネジメントの支援</p> <p>・ CM、サービス事業所支援として連絡会・研修会の開催：年 2 回開催。(箕蚊屋包括主催 3 回)、米子市の研修会 0 回。</p> <p>箕蚊屋地域内 CM で年間計画を立て、それに沿って開催した。新型コロナ感染予防のため、オンラインにて開催する。1 回は淀江包括合同で行い、1 回は淀江、尚徳包括度合同で開催する。</p> <p>(達成率：75%)</p>	<p>2 自立支援に資するケアマネジメントの支援</p> <p>・ CM 支援としての連絡会・研修会を 4 回開催予定。(箕蚊屋包括主催連絡会・研修会 3 回、7 包括合同の事例検討会 1 回)</p> <p>箕蚊屋包括主催研修会は今年度も箕蚊屋地域内 CM と年間計画を立て、それに沿って開催する。</p> <p>・ CM への個別困難事例の支援 (3 事例程度)</p>

<p>・CMへの個別支援(5事例)(S様、N様、O様、K様、I様)</p>	
<p>3 地域包括ケアへの基盤整備の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座開催：3回 11/4 箕蚊屋小学校6年生(高齢者疑似体験) 11/4 箕蚊屋小学校6年生(絵本教室) 11/11 認知症サポーター養成講座(県地区介護予防講座) <p>みのかや小学校4年生からも高齢者疑似体験の要請が新型コロナ感染拡大のため、開催を検討中(達成率 50%)</p>	<p>3 地域包括ケアへの基盤整備の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座：6回開催 高齢者疑似体験 2回 絵本教室 2回 認知症サポーター養成講座 3回 <p>小学校、自治会などで、感染状況をみながら開催する。</p>
<p>4 地域との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員定例会：8回参加(3月に2回予定) ・自治会長会：0回参加 <p>地域ケア会議が定着したことで今年度参加はしていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅福祉員会：7回参加(春日4回、大高1回、巖1回、県1回) ・民生委員・在宅福祉員研修会5回(春日3回、大高1回、巖1回) ・運営推進会議参加(5事業所) <p>GHみのりの里(1)、小規模多機能型居宅介護 虹の音(3)、コムハウス(2)、ピーコック(1)、エレファント(1)</p> <p>新型コロナ感染拡大による中止が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館祭 3公民館(県・巖・春日) ・包括だより発行2回 1/2ヵ月(4・9月) <p>(達成率 民生委員定例会 100%、自治会長会 0%、在宅福祉員 175%、運営推進会議 26.6%、公民館祭 75%、包括だより 100%)</p>	<p>4 地域との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員会への参加：8回 ・在宅福祉員へ挨拶・広報：4地区各1回 ・運営推進会議参加(5事業所) <p>GHみのりの里、小規模多機能型居宅介護 虹の音、地域密着型デイサービス(各6回/年)</p> <p>エレファント運営推進会議参加(2回/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅福祉員定例会：4地区1回/年 ・公民館祭 4公民館(タッチパネル等)。 ・包括だより発行 2回(1/6ヵ月) ・地域内の企業等へ包括支援センターの広報 郵便局、スーパー、コンビニ、ガソリンスタンド、銀行、農協等へチラシを配布
<p>5 独居高齢世帯中心の訪問促進、支援調整 実態把握：現在78件実施。</p> <p>(達成率：65%)</p> <p>介護予防マネジメント業務、総合相談業務などに追われたこと、新型コロナ感染拡大により、独居・高齢世帯等を対象とした、予防的な実態把握</p>	<p>5 独居高齢世帯中心の訪問促進、支援調整 実態把握目標：120件/年</p> <p>職員数が透けることを見込み、前年度の件数を引き続き目標とする。</p>

<p>には十分取り組むことができなかった。</p>	
<p>6 介護予防事業の周知・利用拡大につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防支援・総合事業、ガイナミック、自費運動サービス（運動処よらいや等）についてサロンや訪問などで広報。 ・要請に応じサロン、やって未来支援を実施。 ・地域サポーター部会開催などサポーター支援 10 回実施（目標 8 回）（達成率：125%） 	<p>6 介護予防事業の周知・利用拡大につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防支援・総合事業、自費運動サービス（運動処よらいや）についてサロン、訪問などで広報。がいなみつくについては、令和 4 年度で終了となる。令和 5 年度よりフレイル対策の新事業を検討しているとの事、決定次第対応を検討する。 ・サロン、やって未来や支援を計画的に実施（1/3 ヶ月） ・地域サポーター部会の開催などサポーター支援（目標 8 回）
<p>7 適正な介護予防ケアマネジメントの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント管理表の作成方法を再検討し、モニタリング・評価の確実な実施に取り組んでいる。 ・管理者のチェック・管理を翌月初めに実施。 <p>ケアプラン請求件数 1691 件（1 月末現在） （目標：2040 件、達成率：82.8%）</p> <p>3 月までの予測：2017 件 達成率：98.8%）</p> <p>原因としては、要支援から要介護に区分変更が多かったこと、サ高住等に収書変更したことで、他地域包括支援センターに引き継いだ事が考えられる。</p>	<p>7 適正な介護予防ケアマネジメントの取組み</p> <p>前年に続き取り組みを継続。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント管理表を活用し、モニタリング・評価の適時実施を徹底する。 ・管理者が引き続きチェックし、管理する。 <p>ケアプラン目標件数 2000 件</p>
<p>8 職員のスキルアップ・連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全介護予防サービス支援計画のチェックを実施。 ・包括内会議を週 1 回（計画していたが、訪問や電話対応があり、予定通りにできない事があった。毎日朝の申し送り時や随時連絡事項やケース相談等行うことで対応した。 ・包括研修を毎月予定しているが、実施が遅れがちとなっている。伝達研修の徹底を目指し、持ち回りの包括研修は中止する。 <p>（現 7 回実施）（達成率：58.3%）</p>	<p>8 職員のスキルアップ・連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括内会議（1/週） ・伝達研修（1/月） <p>勤務表作成時に予定を組み込む それ以外にも随時職員で申し送り等の時間を活用し情報共有を行う。</p>

<p>9 医療との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当ケースなどが入院した際、入院時情報提供書を送付している。 ・主治医へのケアプラン提供を行っている。 ・必要時受診同行を行っている。 ・薬剤師とケアマネジャーとの交流会は、新型コロナウイルス感染予防のため、開催出来なかった。薬局を訪問し挨拶をした。 ・地域ケア会議、居宅研修会に医療機関へ案内を行い、参加してもらった。 	<p>9 医療との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院時情報提供書の送付を継続。 ・主治医へのケアプラン提供を継続する。 ・薬剤師とケアマネジャーとの交流会を開催。 ・医療機関に地域ケア会議、居宅連絡会の案内をする。
<p>10 認知症予防、早期発見の強化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タッチパネル 47 件実施（目標 20 件） ・DASC、生活支援アンケート 22 件（目標 40 件） <p>タッチパネルは今年度は 3 地区の公民館祭が開催となり件数が伸びた。</p> <p>DASC は今年度から、認知症の相談を受けたケースが対象となり実施が減少した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジカフェ支援を実施。(0 回) <p>新型コロナウイルス感染予防のため、開催中止。</p> <p>(達成率：タッチパネル 235%、DASC 62%)</p> <p>11 事故防止について。</p> <p>ケアプラン関係事故 1 件発生。</p> <p>交通関係事故 1 件。</p>	<p>10 認知症予防、早期発見の強化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タッチパネル 60 件/年、DASC 40 件/年。 <p>タッチパネルについては新型コロナウイルス感染状況をみながら実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジカフェ再開時、支援を実施。 <p>11 事故防止について</p> <p>引き続き適正なマネジメント業務に努める。</p> <p>安全運転を徹底し、事故防止に努める。</p>

部門	⑦居宅介護支援事業所博愛苑	氏名	井上和昌
----	---------------	----	------

(これまで)	(これから)
<p>1 質の高いケアマネジメント</p> <p>○事業所内の会議、研修を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週、居宅会議を開催することでケアマネジメントに関する技術、地域における社会資源、利用者の情報、困難事例対応などを職員間で共有を図り、事業所として効果的な利用者支援につながった。 ・包括支援センターと困難事例などの情報を共有し、検討することで地域の課題や事例に対して効果的に 	<p>1 質の高いケアマネジメント</p> <p>○事業所内の会議、研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅職員間で情報の共有を図り、介護支援専門員としての資質の向上を図るとともに利用者家族へ適切なケアマネジメント支援を提供する。業務内容の見直しや統一をすることで効率的な業務運営を行う。 ・包括支援センターとの定期的な会議を通じて情

<p>対応することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会を実施し、各職員の気づきや振り返りを行う事で、自分の強みや弱みを把握してケアマネジメント業務に活かすことができた。 ・各職員が各種研修や勉強会に参加した内容について他職員へ伝達を行い、自己研鑽への意欲向上や資質の向上が図られた。 ・専門誌を購読することで、最新の介護保険情報、ケアマネジメント情報、及び知識、技術の習得、理解をすることができた。今後、「ケアマネジメントオンライン」サイトを活用することで、専門誌の情報の代用ができるため、専門誌購読は中止する。 <p>○外部研修への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修が新型コロナウイルスのため、オンラインでの研修会参加となった。研修を通じて知識、技術の習得ができたが、顔の見える関係づくりや地域のネットワークの構築につながらなかった。 ・勤務時間内外でのオンライン研修は事業所内で参加はできたが、事業所外でのオンライン研修への参加は環境により参加できない職員もあった。 <p>○他居宅介護支援事業所と合同の研修会を行う。</p> <p>他法人の居宅介護支援事業所と合同で研修会など3回実施し、資質の向上や地域の情報共有が出来た。コロナウイルス感染症のため研修はオンラインでの開催となり、顔の見える関係性作りにはつながらなかった。</p>	<p>報共有を図り、地域の課題や強みを理解し、利用者、家族の支援に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会、部署内勉強会などを実施し、介護支援専門員の資質の向上を図る。 ・職員同士でケアプランや記録など定期的に確認を行う事で業務の統一を図り、業務効率と資質の向上を図る。 <p>○内部.外部研修などへの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部.外部研修などのオンライン研修に参加することで、技術や知識の習得を行う。 <p>部署内で外部研修に参加できる環境整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員として常に自己研鑽に努めるとともに、研修などに参加することで専門的な知識や技術を習得し、利用者、家族の信頼を得て、利用者のニーズに答えていく。 <p>○他居宅事業所との合同の事例検討会、研修会を行う。</p> <p>特定事業所加算算定を継続するために他事業所との合同で研修会などを計画する。</p> <p>研修会などを通じて、介護支援専門員としての資質の向上を図る。事業所間の連携を密にして地域課題への対応を図っていく。</p>
<p>2 給付管理件数を増やし安定した事業経営を行う。</p> <p>○地域、福祉施設、医療機関からの依頼に積極的に応える。</p> <p>新規利用者名を獲得する。44名（12月末現在） 請求件数 1211件、達成率は80%（12月末現在）。</p> <p>○認定調査受諾 受諾件数 86件（12月末現在）</p> <p>○業務改善を行い、効率的に適切な業務を行う。</p> <p>令和3年保険者（米子市）のケアプラン点検を受け、改善報告書の提出を行う。今後も継続して適正な業務運営ができるように、適宜、点検、確認を行う。</p>	<p>2 給付管理件数を増やし安定した事業経営を行う。</p> <p>○地域、福祉施設、医療機関からの依頼に積極的に応える。</p> <p>病院・施設・他居宅・包括からの依頼に積極的に応え、信頼関係を構築し連携を図ることで利用者獲得を行う。職員一人ひとりが信頼を得るために何ができるか、意識して業務を行う。</p> <p>○委託業務を受託し延滞なく提出する。</p> <p>認定調査依頼を受諾し、地域貢献を行う。</p> <p>○業務改善を行い効率的、適切な業務を行う。</p>

<p>改善状況：各事業所へのサービス計画書の交付の記載が支援経過記録、会議録などにされているか、管理者が各職員の事例を確認する。</p> <p>改善策：運営基準第13条11号の根拠に基づきケアマネジメント業務としての位置づけがあることを各職員に伝達する。支援経過記録、または会議録に記録することとする。</p> <p>タブレットなどの通信機器を利用して事務処理の軽減が図れた。</p> <p>○加算項目を的確に把握し請求を行い、介護報酬の増益を図る。</p> <p>請求業務時に加算減算事前設定一覧表を利用して加算項目の把握を行い、介護報酬の増益を行う。入退院、入退所時の各病院や施設との情報共有を図り、それぞれの加算を獲得することができた。加算算定要件について理解不足の職員もあり、更なる研修の必要性を認めた。</p> <p>○地域とのつながりを持ち、情報の発信を行う。</p> <p>新型コロナウイルス感染症のため地域ケア会議に参加ができず、地域の現状把握と課題の発見・対応など事例を通して確認することができなかつた。</p> <p>博愛会のインターネットのブログサイトを通じて定期的に事業所情報（各職員の想い等）を発信する。</p>	<p>タブレットなどの通信機器を利用して業務の効率化を目指す。</p> <p>適宜、業務内容の統一が出来ていない項目があれば取り組みを行い適正な業務運営を行う。業務の見直しや変更点の確認を行い法令順守した適切な業務履行を行う。</p> <p>○加算項目の把握と介護報酬の増益を図る。</p> <p>老健施設、病院などと情報提供など情報の共有を行い、利用者や家族のニーズに答え、適切な支援を行うことで入退院連携加算を獲得する。各種加算の算定要件の理解することが必要。</p> <p>○地域とのつながりを持ち情報発信をしていく。</p> <p>地域包括支援センターとの情報の共有を図り地域の現状把握と課題などを確認する。 困難事例等適宜、地域包括支援センターと連携して対応する。</p> <p>広報誌による情報発信や博愛会ブログサイトを活用し事業所の情報発信を行う。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

部門	⑧みのかや運動処よらいや	氏名	田中 啓太
----	--------------	----	-------

(これまで)	(これから)
<p>昨年度同様に、感染拡大防止策をとりながらの運営となった。感染対応も3年目となり、各所で緩和措置がみられるようになった。よらいやでは、喫茶コーナーの利用再開、人数制限の拡大を行った。コロナ前の活気が少しずつ戻ってきてはいるが、未だ自粛による休会者も多数おり、全盛期に比べ6割ほどの会員数である。コロナ禍によって、活動量の減少による体力低下を気にする高齢者が増えた。今年度は、そのような方からの新規入会が多数あった。今年度の新規入会者23名。</p> <p>新規利用者の獲得を目的とした渉外活動の達</p>	<p>コロナ禍によって体力低下した高齢者が、地域には沢山存在する。令和5年度は、フレイル予防に力を入れ、地域の皆様に広くよらいやを活用していただけるよう、広報活動していく。</p> <p>お得なキャンペーンやイベントも随時開催していき、新規入会者を増やして、前年度より10%収益アップを目指す。</p> <p>出張講座については、勤務調整が出来る範囲で引き受けていく。</p> <p>利用者の満足度を向上させることで、休会・退会者を減らし、口コミによる紹介でも、新規利用者の</p>

<p>成度は 30%でした。</p> <p>今年度は、米子公会堂や公民館への出張講座を 3 件実施した。11 月には当事業所で、チェアヨガ・体操教室を開催した。見学、体験希望があれば随時受け入れており、会員からの口コミや包括、居宅からの紹介もあり、今年度の新規利用者は 23 名でした。新規利用者を増やす目標に対して達成度は 191%でした。対前年比は会員数 89%、収益 94%となった。</p> <p>前年度収益より 20%アップの目標を掲げたが、達成度は 80%でした。</p>	<p>増加に繋げていく。</p> <p>利用者からの意見や要望は真摯に受け取り、改善に努めていく。</p> <p>情報発信を行い、広域にわたって、よらいやを知って頂くよう取り組む。ホームページブログのアップ、広報誌に記事を掲載する。(年 4 回発行)</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

部門	⑨⑩就労継続支援 A・B 型あそしえ	氏名	渡邊 一江
----	--------------------	----	-------

(これまで)	(これから)
<p>A 型事業</p> <p>清掃では感染対策を徹底して行い、職員や利用者で感染者は出るが、感染を広めることなく業務を行うことが出来た。</p> <p>一般就労を目指した支援の中で、利用者 2 名が法人内の特養とデイサービスに就労し、継続して仕事が出来ている。</p> <p>また、3 月末からあそしえ A 型の利用者をピアサポーターとして A 型職員に採用する。個別面談を月 2 回行い、利用者の安定につなげることが出来、出勤率も高く保っている。</p> <p>あん摩ではデイサービスで施術を継続して行うことが出来ている。</p> <p>地域のサロンなど住民が集う場所に出かけていく予定にしていたが、コロナ感染症のリスクを考え中止している。</p>	<p>A 型事業</p> <p>障がい特性の理解を進めていき、一人で作業が出来る支援を行う。その結果、一般就労につながるように支援を深めていく。</p> <p>あん摩では、地域の方に認知してもらい、利用につながるように、地域のサロンなど住民が集う場所に出かけていく。</p>
<p>B 型事業</p> <p>昨年度から請け負っている芋加工作業を主軸に作業を行っている。3 か月で 2t の作業を行った。</p> <p>また、自主自立の作業として、大山小麦を使用したクッキー販売を開始し、時給 4 2 8 円の作業になっている。</p>	<p>工賃を向上するために、クッキーの他にも商品開発を行い自主自立の作業を増やしていく。</p> <p>また、障がい特性の理解を進め、スケジュールの視覚支援などの環境設定を行い、一人で出来る作業を増やしていき、就労継続支援 A 型につなげていく。</p>

部門	⑪放課後等デイサービスときぞう 児童発達支援ときぞう	氏名	山根 和代
----	-------------------------------	----	-------

<p>1 利用者の活動の充実</p> <p>今年度も施設内での活動の充実を図ることを行った。</p> <p>① 体力づくり</p> <p>運動の基本の歩く力をつけるために、散歩を継続した。また、運動処よらいやの田中健康運動指導の指導で感覚統合療法を取り入れた運動を行った。</p> <p>② 社会性と生活力の向上</p> <p>利用者一人ひとりのモニタリングを行い、社会生活に必要な力を支援計画にあげて支援を実施した。お手伝いなどの役割をもって活動し、自信につなげ、生活の中で出来ることが増えている。</p> <p>③ 高齢者施設との交流</p> <p>コロナ禍であったがデイサービスや特養と焼き芋交流やハロウィンなど密にならないように工夫し交流を行った。</p>	<p>1 利用者の活動の充実</p> <p>令和5年度も、感染予防をしながら共生社会を目指して出来る活動を行う。</p>
<p>2 支援力向上</p> <p>個々の特性を理解して支援が出来るように、○JTでの指導を徹底した。</p>	<p>2 支援力向上</p> <p>個々の特性を理解して支援が出来るように、○JTでの指導を行っていく。</p>

部門	⑫相談支援事業所りんく	氏名	松本 雅樹
----	-------------	----	-------

<p>一つの事業所だけでは対応が困難な事例は、市町村担当者や基幹相談支援センター、児童相談所と連携をとりながら支援を行うことが出来た。</p>	<p>令和5年度も他の機関と連携をとりながら、利用者の生活が安定するように支援を行う。</p>
-------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------

部門	⑬総務部	氏名	岩崎 豪
----	------	----	------

(これまで)	(これから)
<p>※各部署が計画した、令和4年度事業計画の達成度等を記載してください。</p>	<p>これまでをどのように振り返り、各部署の令和5年度の事業計画を立案したのか、記載してください。</p>
<p>1 働きやすい職場の環境づくり</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、就職フェアが中止されるなど直接の求人活動は制限されたが、ハローワークと連携を図りながら、オンラインでの説明会、感染防止対策を徹底した就職フェアへの参加、個別の企業説明会の開催など人材確保に努め、法人ホームページ、福祉人材ページ、ネット求人サイト等インターネットを活用した情報発信を行った。</p> <p>人事考課は、賞与査定に併せて、面談、新たな評価基準スキルマップでの評価を実施し、職員とのコミュニケーションを図るとともに職場環境の改善に努めた。</p> <p>キャリアパスの明確化の中で、スキルマップでの評価を基に等級基準表に沿った見直しを行った。</p> <p>施設整備は、博愛苑の外壁塗装及び防水等改修工事を行った。</p> <p>達成度は80%</p> <p>2 法人機能の健全経営の推進</p> <p>理事会、評議員会を適宜開催したが、感染症の影響で議決の省略で行う場合もあった。</p> <p>経営会議を実施することで、経営課題等も情報共有しながら、解決に向けて取り組むことができた。管理者会議で協議した内容や課題についても、特に感染症対策等の重要課題を全職員に伝えるように会議録を通じて共有化できた。</p> <p>監事による中間監査を実施するとともに、法人の業務の適正を確保するために小口現金の管理状況の内部監査を実施した。</p> <p>苦情処理については、いただいたご意見に対して真摯に解決に取り組んだ。</p> <p>達成率は80%</p>	<p>1 働きやすい職場の環境づくり</p> <p>ハローワーク等と連携しながら適切な人材確保への取組は、就職フェアへの参加、個別の企業説明会の開催、学校訪問等に務め、法人ホームページ、福祉人材ページ、ネット求人サイト等インターネットを活用した情報発信を重点的に継続するとともに、離職防止に向けた職場環境の改善として、キャリアパスに連動した各種研修制度及び研修計画の見直しを行う。</p> <p>人事考課については、面談等適宜コミュニケーションを図りながら、適切な人事考課に努める。また、キャリアパスの取組の中でスキルマップを活用した人材育成の充実を図る。</p> <p>鳥取県男女共同参画推進企業認定、鳥取県家庭教育推進協力企業認定及び鳥取県介護人材育成事業者認定評価の取得に向けた職場環境の改善に努め、各認定を取得する。</p> <p>2 法人機能の健全経営の推進</p> <p>法人機能強化に向けた取り組みとして、制度改正、課題解決に伴う的確な対応ができるように、理事会、評議員会を適宜開催する。</p> <p>経営会議を実施することで、経営課題等も情報共有しながら、解決に向けて取り組むこととする。</p> <p>管理者会議での協議、特に感染症対策等の重要課題を全職員に伝えるように情報の共有化を図る。</p> <p>また、財務の透明性を高めるための監事による中間監査、法人の業務の適正を確保するための小口現金の管理状況の内部監査を実施する。</p> <p>苦情・ご意見に対しては、速やかに解決に取り組むとともに公表する。</p>

<p>3 広報活動の充実</p> <p>情報発信による見える化、情報共有を目的として、法人ホームページを積極的に更新することに取り組みました。</p> <p>また、事業所ごとの情報をブログやフェイスブックも活用して、タイムリーに発信した。</p> <p>感染症対策の基本的な方針や面会等を制限したため、その都度の対応についてもホームページで情報発信に努めた。</p> <p>広報紙も3か月おきに発行し、ご家族様、地域の皆様にも各事業所の情報を発信することが出来た。</p> <p>達成度は75%</p> <p>4 人材育成</p> <p>職員の育成を目的とした研修を年間計画のもとに実施した。感染症の影響で、外部講師を依頼することが制限され、中止になる外部研修もあったが、オンライン研修制度を取り入れるなど人材育成へ取り組みました。</p> <p>全体向けの教養と、専門性のある項目に分け各研修を実施した。</p> <p>各職員に必要な項目を見極め、役職に応じた研修を実施した。また、専門的な研修については、職員のスキルアップと、指示できる職員の育成を目的に研修を行った。</p> <p>感染症の影響で外部研修が大幅に制限された。</p> <p>達成率65%</p>	<p>3 広報活動の充実</p> <p>情報発信による見える化、情報共有を目的として、法人ホームページをさらに積極的に活用する。</p> <p>また、事業所ごとの情報をブログやフェイスブックも活用して、タイムリーな発信を継続する。</p> <p>感染症対策等の重要な事項についても、その都度ホームページで情報発信に努める。</p> <p>広報紙も3か月おきに発行し、家族様、地域の皆様にも各事業所の情報を発信する。</p> <p>4 人材育成</p> <p>職員のキャリアパスに連動したスキルアップを目的とした研修を年間計画のもとに実施する。外部講師への依頼、オンライン研修制度等の取り入れながら継続した人材育成へ取り組む。</p> <p>全体向けの教養、専門性のある項目に分けた研修を実施するとともに、経験等に併せた階層別研修等各職員に必要な項目を見極め、役職に応じた研修を実施する。</p> <p>積極的に外部研修を受講する。</p>
<p>その他</p>	

令和5年度 社会福祉法人博愛会 事業計画

①令和5年度事業計画（介護課）

I スローガン

100人100通りの生活

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月） 対目標値（%）	第2四半期（7～9月） 対目標値（%）	第3四半期（10～12月） 対目標値（%）	第4四半期（1～3月） 対目標値（%）
1	季節感のある行事の実施（各通り月1回）	目標数値（%）	4通り×3か月＝12回	4通り×3か月＝12回	4通り×3か月＝12回
		実績			
2	ショートステイ月間稼働率85%以上を維持	目標数値（%）	87%以上	87%以上	87%以上
		実績			

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 （準備・段取り）	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 ケアの質の向上	<p>①ユニットケア実地研修施設 基準項目93項目の取組強化</p> <p>②レクリエーション活動の充実</p> <p>③次期リーダーとなる人材の育成</p>	<p>計画</p> <p>(1)重点取組項目の実施と検証 ①各ユニットの取り組み状況を確認して、ユニットの課題を共有して解決策について話し合う。 ②ユニットケア会議にて、主任、課長がユニットケアについての理解を深め、ユニット会議で職員にユニットケアを行う意味をしていく。 ⇒ユニット毎で取組、進捗状況をユニット会議で報告する</p> <p>(2)コロナ5種移行後の感染状況を確認しながら行事を実施、他部署との交流を再開する。 ①毎月誕生会や季節を感じてもらえる行事を実施する ②特養合同での行事や他部署との交流を行う ③入居者様の希望に沿った個別の取組を行う</p>	<p>(1)重点取組項目の実施 ①各ユニットの取り組み状況を確認して、ユニットの課題を共有して解決策について話し合う。 ②ユニットケア会議にて、主任、課長がユニットケアについての理解を深め、ユニット会議で職員にユニットケアを行う意味をしていく。 ⇒ユニット毎で取組、進捗状況をユニット会議で報告する</p> <p>(2)コロナ5種移行後の感染状況を確認しながら行事を実施、他部署との交流を再開する。 ①毎月誕生会や季節を感じてもらえる行事を実施する ②特養合同での行事や他部署との交流を行う ③入居者様の希望に沿った個別の取組を行う</p>	<p>(1)重点取組項目の実施 ①各ユニットの取り組み状況を確認して、ユニットの課題を共有して解決策について話し合う。 ②ユニットケア会議にて、主任、課長がユニットケアについての理解を深め、ユニット会議で職員にユニットケアを行う意味をしていく。 ⇒ユニット毎で取組、進捗状況をユニット会議で報告する</p> <p>(2)コロナ5種移行後の感染状況を確認しながら行事を実施、他部署との交流を再開する。 ①毎月誕生会や季節を感じてもらえる行事を実施する ②特養合同での行事や他部署との交流を行う ③入居者様の希望に沿った個別の取組を行う</p>	<p>(1)重点取組項目の実施 ①各ユニットの取り組み状況を確認して、ユニットの課題を共有して解決策について話し合う。 ②ユニットケア会議にて、主任、課長がユニットケアについての理解を深め、ユニット会議で職員にユニットケアを行う意味をしていく。 ⇒ユニット毎で取組、進捗状況をユニット会議で報告する</p> <p>(2)コロナ5種移行後の感染状況を確認しながら行事を実施、他部署との交流を再開する。 ①毎月誕生会や季節を感じてもらえる行事を実施する ②特養合同での行事や他部署との交流を行う ③入居者様の希望に沿った個別の取組を行う。</p>

				(3)OJTの指導者対象者の決定(4月) 責任者(リーダー)の勉強会(通年) 新人チェックリストの指導、確認、職員フォローアップ(通年) (4)主任(ユニットリーダー)と職員との定期的な面談(四半期ごと)を行う (5)外部研修の積極的な受講(通年) 資格取得(初任者研修、実務者研修、介護福祉士、介護支援専門員) 認知症、キャリアパス(階層別)は必須 (その他適宜研修への参加)				
			実績					
2	安定した経営の確保	①特養及びショートにおける稼働率向上	計画	(1)情報発信とデータ整理 ①特養待機者5名選定 (イ)毎月待機者リスト更新 (ロ)定期的に待機者面談を実施 ②ショート稼働率85%以上維持 (イ)利用調整 (ロ)居宅事業所へ空床情報提供 (ハ)HP空床状況を更新 (ニ)毎月15日に市役所へ情報提供	(1)情報発信とデータ整理 ①特養待機者5名選定 (イ)毎月待機者リスト更新 (ロ)定期的に待機者面談を実施 ②ショート稼働率85%以上維持 (イ)利用調整 (ロ)居宅事業所へ空床情報提供 (ハ)HP空床状況を更新 (ニ)毎月15日に市役所へ情報提供	(1)情報発信とデータ整理 ①特養待機者5名選定 (イ)毎月待機者リスト更新 (ロ)定期的に待機者面談を実施 ②ショート稼働率85%以上維持 (イ)利用調整 (ロ)居宅事業所へ空床情報提供 (ハ)HP空床状況を更新 (ニ)毎月15日に市役所へ情報提供	(1)令和5年度の振り返りと課題抽出 (2)令和6年度に向けての目標等検証	
			実績					
3	介護サービスにおける生産性向上	①介護ロボット・ICT機器を活用	計画	(1)インカムを活用し業務の効率化を図る ①インカム活用における課題は現場職員から聴き取りして、主任・課長会議で検討し解決する。 ・現場職員から聴き取り ・聴き取り内容について協議 ・協議内容を実施 ※第1四半期内に実施する (2)タブレット・iPod活用 ・タブレット・iPodを活用し、記録の効率化を図る ・褥瘡や怪我、事故の検証に使用	(1)インカム活用し業務の効率化を検討、実施する ①インカム活用方法を実施、進捗状況を確認 ※進捗状況に合わせて協議する (2)タブレット活用 タブレット活用方法の検証 (3)介護ロボット・ICT機器活用について情報収集の継続	(1)インカム活用し業務の効率化を検討、実施する ①インカム活用方法を実施、進捗状況を確認 ※進捗状況に合わせて協議する (2)タブレット活用 タブレット活用方法の検証 (3)介護ロボット・ICT機器活用について情報収集の継続	(1)令和5年度の振り返りと課題抽出 (2)令和6年度に向けての目標等検証	

				・ショートステイの荷物確認で使用 (3)介護ロボット・ICT 機器活用について情報収集の継続			
			実績				

②令和5年度 事業計画（医務）

I スローガン

介護との連携強化

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1	感染防止	目標	感染症の発症 0件	感染症の発症 0件	感染症の発症 0件
		実績			
2	褥瘡予防に努める	目標	褥瘡発生 0件	褥瘡発生 0件	褥瘡発生 0件
		実績			
3	救急搬送を減らす	目標	救急搬送数 0件	救急搬送数 0件	救急搬送数 0件
		実績			

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1	専門職の役割を發揮し介護と協働する。	感染防止	計画	① 職員・入居者様に感染症（コロナ・ノロウイルス・インフルエンザ・感染性胃腸炎）を発生させない。	① 職員・入居者様に感染症（コロナ・ノロウイルス・インフルエンザ・感染性胃腸炎）を発生させない。
		実績			
2	褥瘡予防に努める	計画	① 介護職員と連携し皮膚観察に努め褥瘡を発生させない。	① 介護職員と連携し皮膚観察に努め褥瘡を発生させない。	① 介護職員と連携し皮膚観察に努め褥瘡を発生させない。

1		実績				
3	体調変化時の早期対応について振り返る	計画	① 救急搬送を減らす ② 看護師会で急変者の振り返りを実施する	① 救急搬送を減らす ② 看護師会で急変者の振り返りを実施する	① 救急搬送を減らす ② 看護師会で急変者の振り返りを実施する	① 救急搬送を減らす ② 看護師会で急変者の振り返りを実施する
		実績				
4	口腔ケアの必要性を理解してもらう	計画	① 利用者様の定期的な口腔内チェックを行う	① 利用者様の定期的な口腔内チェックを行う。	① 利用者様の定期的な口腔内チェックを行う。	① 利用者様の定期的な口腔内チェックを行う。
		実績				

③令和5年度 デイサービス事業計画書

I スローガン

「愉快活発」
元気で楽しく心地よいデイサービスを目指します。

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月） 対目標値（%）	第2四半期（7～9月） 対目標値（%）	第3四半期（10～12月） 対目標値（%）	第4四半期（1～3月） 対目標値（%）	
1	月間延べ利用者数 900 人以上 （1月～3月は800人以上）	目標数値 （人）	2,700人以上	2,700人以上	2,700人以上	2,400以上
		実績	人 （対目標比： %）	人 （対目標比： %）	人 （対目標比： %）	人 （対目標比： %）
2	新規利用者の獲得 （月平均3名以上）	目標数値 （人）	12人	12人	12人	9人
		実績	人 （対目標比： %）	人 （対目標比： %）	人 （対目標比： %）	人 （対目標比： %）

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 （準備・段取り）	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 経営基盤の確立	①利用者数を増加し、収入増を図る。 ②加算取得による増	計画 ② 各居宅介護支援事業所及び包括支援センターを毎月訪問し、新規利用者を増やす。（目標・・・月に新規3件） ③ 口腔機能向上加算Ⅱの取得者を増やす。事業所評価加算の維持。			① 振り返り、次年度への課題抽出、対策の決定。

		収。 ③総合事業を月～金まで実施し、利用定員5名を定着させる。		包括支援センターへ定期的に訪問し、新規利用者の獲得。 また、サービス内容を見直し、ニーズにあった内容を実施する。			
			実績	①	①	②	
2	職員の能力向上及び職場環境の整備	①サービスの質の向上と業務の効率化を図る。 ②職員の心身負担軽減と各感染症防止の徹底を図る。	計画	① 業務の見直し、改善案を実行し、良質なサービスの提供と業務負担軽減に繋げる。 重点取り組み ・送迎、入浴 ② 職員間での傾聴と指摘、改善行動を重ね、職員の心身負担の軽減と、より良い関係を構築する。 また、体調管理や定期的な有休休暇の取得、各感染症防止対策の徹底を図り、予定勤務通りに勤務することができる。	① 業務改善の検証、見直し、実行。 重点取り組み ・レク、作品作り ② 職員面談、個別支援等。 有休休暇の取得確認、取得促し。 感染症対策の確認。 (通年)	① 業務改善の検証、見直し、実行。 重点取り組み ・環境整備	① 振り返り、次年度への課題抽出。 振り返り
			実績				
3	利用者及び家族との関係作りの充実	①利用者及び家族の満足度向上を図る。 ②情報発信。	計画	① レクリエーションと行事を重点的に取り組み、デイサービスに行くのが楽しいと言われる。 4月桜まつり 5月つつじドライブ 6月スイーツパーティー ② 定期的にブログ更新を行い、デイサービスでの様子を発信する。 (通年)	① 前期の振り返り、課題抽出や対策の実施。 7月七夕まつり 8月夏まつり 9月敬老会	① 前期の振り返り、課題抽出や対策の実施。 10月運動会 ハロウィン仮装 11月紅葉ドライブ 12月クリスマス会	① 前期の振り返り、課題抽出や対策の実施。 1月新年会 2月節分 3月雛まつり
			実績				

④令和5年度 リハビリテーション室事業計画書

I スローガン

地域交流を推進し自立支援を支える

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月） 対目標値（%）	第2四半期（7～9月） 対目標値（%）	第3四半期（10～12月） 対目標値（%）	第4四半期（1～3月） 対目標値（%）
1	加算報酬算定を確実に行う（デイサービス）	目標数数 個別機能訓練加算 入浴介助加算Ⅱ 口腔機能向上加算 口腔栄養スクリー ニング加算 実施者に100%算定	個別機能訓練加算 入浴介助加算Ⅱ 口腔機能向上加算 口腔栄養スクリー ニング加算 実施者に100%算定	個別機能訓練加算 入浴介助加算Ⅱ 口腔機能向上加算 口腔栄養スクリー ニング加算 実施者に100%算定	個別機能訓練加算 入浴介助加算Ⅱ 口腔機能向上加算 口腔栄養スクリー ニング加算 実施者に100%算定
		実績 (対目標比：%)	(対目標比：%)	(対目標比：%)	(対目標比：%)
2	加算報酬算定を確実に行う。(介護老人福祉施設)	目標数値 個別機能訓練加算 褥瘡マネジメント 加算・排せつ支援加算実施者に10 0%算定	個別機能訓練加算 褥瘡マネジメント 加算・排せつ支援加算実施者に10 0%算定	個別機能訓練加算 褥瘡マネジメント 加算・排せつ支援加算実施者に100% 算定	個別機能訓練加算 褥瘡マネジメント 加算・排せつ支援加算実施者に10 0%算定
		実績 (対目標比：%)	(対目標比：%)	(対目標比：%)	(対目標比：%)

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1	利用者を増やす 加算報酬算定を 確実に行う。(デ イサービス)	<p>① 利用者の自宅での入浴の自立を図る 為に介護支援専門員・福祉用具専門 相談員、介護職員らと連携し、福祉 用具の貸与・購入・住宅改修等の浴 室の環境整備など係る助言を行います。 重症者が安全安楽な入浴が出来る ような環境作りを行います。 担当者不在時でも正確な実績管理、 L I F Eへの出力ができるような体 制を作ります。</p> <p>② 高齢者に馴染みのある綿繰りなどを 行い、地域交流・地域産業に貢献す る事で意欲を向上し、在宅生活が維 持できる心身機能の維持向上を目指 します。時間をかけて行う作品作り や回想法など認知機能にも働きかけ た訓練を行い、活動性向上を図りま す。HAKを活用することで、役割作 り、楽しみと目標を持って生活でき るように促します。リハビリ特化型 デイサービスの開始を念頭に置きな がら、フレイル予防に関わります。</p> <p>③ 口腔機能向上加算 口腔栄養スクリ</p>	前期計画を継続	前期計画を継続	令和6年度に向けての目標等検証

	<p>加算報酬算定を 確実に行う。(介 護老人福祉施 設)</p>	<p>個別機能訓練加算 褥瘡マネジメント加算 排せつ支援加算</p>	<p>ーニング加算が確実に算定できるよ うに、体制を整えます。</p> <p>④ 担当者不在時でも正確な実績管理、 LIFEへの出力ができるような体 制を作ります。</p> <p>⑤ 入所者等ごとに褥瘡の発生と関連の あるリスクについて、医師、看護 師、管理栄養士、介護職員、介護支 援専門員その他の職種が共同して、 褥瘡管理に関する褥瘡ケア計画を作 成します。厚生労働省に提出し、支 援に当たって情報等を活用し、支援 を継続して実施します。ベッド上及 び車いす上の姿勢を整え、食事や体 操などの活動が行いやすいようにし ます。</p> <p>⑥ 褥瘡を予防する環境作りとして、圧 抜きの徹底、福祉機器の確認を行 います。</p> <p>⑦ 排せつに介護を要する入所者等ご とに、要介護状態の軽減の見込みにつ いて、医師又は医師と連携した看護師が 施設入所時等に評価を行い、結果等を 厚生労働省に提出し、排せつ支援に当 たって情報等を活用し、それに基づ いた支援計画を作成し、支援を継続して 実施します。</p>			
2	<p>リハビリテ ーション室の体 制確立</p>	<p>法改正への対応</p>	<p>実績</p> <p>計画</p> <p>① 職員間で話し合いを行い、情報共有 し、計画書を作成し、ポイントを全 職員に伝達する体制を作ります。</p> <p>② 入浴、排泄、移乗、食事など日常生 活場面に介入し、ご利用者様の能力 を活用し、職員が安楽な方法を実際 に行いながら伝達します。介護技術 を伝達し知識を共有し、職員とご利 用者がお互いに安楽な介護をするこ とで、ご利用者の機能維持向上と職</p>	<p>前期計画を継続。</p>	<p>前期計画を継続。</p>	<p>令和6年度に向けての目標等検証</p>

				員全体の全体のレベルUPにつなげます。 ③ サービスの質の向上と業務の見直し・効率化し、職員の負担軽減を図ります。 ④ 法改正に向けて情報収集を行います。			
			実績				

⑤令和5年度 事業計画（グループホーム みのりの里）

I スローガン

共に学び、共に支え、共に成長する。

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1	稼働率の維持（毎月99%以上）	目標	99%以上	99%以上	99%以上
		実績			
2	入居待機者の確保（随時5名確保）	目標	5名	5名	5名
		実績			

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 （準備・段取り）	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 経営基盤の 確立	① 経営状況の安定化（空床による減算を防ぐ） ② 看取り研修（年2回）・認知症の研修（年4回）定期的に実施し看取り・認知症対応への充実を図る。 ③ 経費削減を図る。	④ 各居宅介護支援事業所及び包括支援センターと連絡を取り、入所候補者を確保し、空床時には速やかに入所してもらうことができる。（目標⇒待機者5名確保） また、状態変化に早く気づき、入院者を減らす。 ⑤ 看取り研修（6月・12月）と認知症研修（4月・7月・10月・1月）を職員に実施し、看取りと認知症への理解を深め、個々に合ったケアを実施する。 ⑥ 定期的に水道光熱費や事務消耗品費・食材費を提示し、職員	① 待機者の状況確認。 待機者が5名以下にならないように引き続き各居宅介護支援事業所等へ連絡し入居申し込みに繋げる。（通年） ② 新たな加算取得の検討、対策。 加算取得が継続できるよう、必要資格（認知症介護実践リーダー研修等）の受講をする。（通年） ③ 経費削減の状況把握、削減の為の新たな取り組み検討と実施。		① 振り返り、次年度への課題抽出、対策の決定。 ② 次年度の資格（認知症介護実践リーダー研修）取得者の決定。 ③ 今年度の経費の検証、次年度への課題抽出、対策の決定。

				全員に費用に対する意識付けを行い、経費削減に繋げる。			
			実績				
2	職場環境の整備	① サービスの質の向上と業務の効率化 ② 職員の心身負担軽減と各感染症防止の徹底を図る。 ③ 時間外勤務を減らし心身負担の軽減を図る	計画	③ ICT 機器を活用し効率良く業務を行い、入居者との関わりを増やす改善案を実行する事で良質なサービスの提供と業務負担軽減に繋げる。 オンライン研修や内部研修（通年） ④ 職員間での傾聴と指摘、改善行動を重ね、職員の心身負担の軽減と、より良い関係を構築する。 また、体調管理や定期的な有休休暇の取得、各感染症防止対策の徹底を図り、予定勤務通りに勤務することができる。 ⑤ 職員同士の声を掛け合い、業務の引継ぎを行う事で勤務時間終了30分以内の退勤を確実に図る。	③ 業務改善の検証、見直し、実行。 ④ 職員面談、個別支援等有休休暇の取得確認、取得促進し。 感染症対策の確認。	① 業務改善の検証、見直し、実行。	① 振り返り、次年度への課題抽出と対策の決定。 ② 振り返り。
				実績			
3	グループホームの目的に沿った生活支援の徹底	①グループホーム行動指針の徹底 ②日常生活上の機能訓練拡充（掃除・洗濯・調理等の役割を持って生活していただく） ③グループホーム入居者の検討。	計画	① グループホーム行動指針に沿った毎月の目標を立て、実践する。 ② 各入居者の状態にあった役割を一緒になって見つけ、共同生活を送っていただく。（通年） ③ 加齢による心身機能低下により、共同生活が困難な方は、状況を見て特養へ移って頂く等を検討する。（通年）	① グループホーム行動指針に沿った毎月の目標を立て、実践する。 ② グループホーム行動指針に沿った毎月の目標を立て、実践する。	③ グループホーム行動指針に沿った毎月の目標を立て、実践する。年間を通しての実践状況を振り返る。	
				実績			
4	家族との関係作りの充実	①定期的な情報発信やオンライン面会等で、状態や情報を把握し、双方安心して生活を送ることができる。	計画	① みのりの里広報誌を発行する。（5月） ② 家族様アンケートの実施（6月） ③ オンライン面会（随時） ④ LINE を活用した情報発信	① みのりの里広報誌を発行する。（7・9月） ② 家族様アンケートの結果公表（8月）	① みのりの里広報誌を発行する。（11月）	① みのりの里広報誌を発行する。（1・3月）

				⑤ 入居者の状態変化時には早期に連絡を行い報告する。			
			実績				
5	地域との交流	① 地域社会との関り方を検討し、新たな交流の仕方に関わることができる。	計画	① 運営推進会議の開催。(5月) (外部評価における自己評価を実施する) ② 新たな地域交流の仕方を検討し、実施する。 (以前交流していた、保育園やボランティアの方と連絡を取り、これまでの関係を継続させる取り組みも行う)	① 運営推進会議の実施。(7・9月) (外部評価についての話し合い及び評価を実施する。)	① 運営推進会議の開催。(11月) (外部評価を実施する)	① 運営推進会議の開催。(1・3月) (外部評価の目標達成シートの作成及び結果の公表を実施する)
			実績				

⑥令和5年度 事業計画書 (ののかや運動処よらいや)

I スローガン

フレイル予防で地域の皆様を元気に！

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)	
1	新規利用者を増やす	目標	4名	4名	4名	3名
		実績	名 (対目標比: %)	名 (対目標比: %)	名 (対目標比: %)	名 (対目標比: %)
2	前年度収益より10%アップ (前年度収益¥2,490,000)	目標	684,750円	684,750円	684,750円	684,750円
		実績	円 (対目標比: %)	円 (対目標比: %)	円 (対目標比: %)	円 (対目標比: %)

III 年間スケジュール

※四半期ごとに実施状況を確認し、その結果を記載する。

未実施の場合は、次の四半期に記載する。計画欄には、期限等を具体的に記載する。

基本方針	重点具体策・実施項目	第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
------	------------	-------------	-------------	---------------	-------------

		(準備・段取り)						
1	会員数を増やし、維持する	<p>①渉外活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 配布用広告チラシを作成する 地域へパンフレット、チラシを配る(近隣の公民館、商店、医療施設、地域包括など) 依頼があれば、周辺の集会所等へ運動指導に行きPRする 初めての方へ施設を見学、体験して頂く(随時歓迎、その都度対応する) <p>②各種入会キャンペーンの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> お友達紹介キャンペーン 新規入会者割引キャンペーン <p>キャンペーンは様々な人へ告知する。チラシを、各事業所の請求書やお便りに同封して、利用者家人へ知って頂くよう働きかける。</p> <p>③利用者満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の満足度を上げ、口コミによる新規利用の輪を拡げる 快適に利用して頂けるようトレーニング機器のメンテナンスを行う(毎月中旬実施) 運動イベントを開催 <p>トレーニングを継続することで特典がついてくる。目標達成すると、景品を贈呈。達成感とお得感を味わっていただく</p> <p>④休会、退会者へのフォローアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 休会者(ひと月休会している方)へ電話連絡し、近況確認行う 退会者の理由を精査し、ご要望で変更可能である場合は対応する。 <p>⑤定期的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ブログの更新(2週/1回更新) 法人広報誌に記事掲載(6、9、12、3月発行) 	計画	<ul style="list-style-type: none"> 広告チラシを作成する(4月) 近隣地域へ、チラシやパンフレットを配る(4月下旬) 外部への運動指導(依頼受け調整可能なら実施) 見学、体験希望者あれば随時対応する 新規入会者キャンペーン(6月)期間中に新規入会の方は、初月利用料が半額となる。 	<ul style="list-style-type: none"> お友達紹介キャンペーン(7月)現会員による紹介で新規入会した場合、新規入会者の会費を、ひと月分無料にする。 お友達紹介キャンペーンを実施し、紹介者には粗品を贈呈。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規入会者キャンペーン(9月)期間中に新規入会の方は、初月利用料が半額となる。 お友達紹介キャンペーン(12月)現会員による紹介で新規入会した場合、新規入会者の会費を、ひと月分無料にする。 お友達紹介キャンペーンを実施し、紹介者には粗品を贈呈。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規入会者キャンペーン(2月)期間中に新規入会の方は、初月利用料が半額となる。 	
			実績	<ul style="list-style-type: none"> 休会者へのフォローアップ(対象者へ随時実施) ブログの更新 広報誌発行(6月) 	<ul style="list-style-type: none"> 運動イベント開催(8月)運動量=ポイント換算し、目標ポイントに達成すれば景品を贈呈。 広報誌発行(9月) 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度調査アンケート実施(10月)アンケート結果公表(12月上旬) 既存会員へ年賀状の発送(12月) 休会者へ年賀状の発送(12月) 広報誌発行(12月) 	<ul style="list-style-type: none"> お正月福引イベント開催(1月)1月利用された方は福引(期間中1回)が出来る。 運動イベント開催(2月)運動量=ポイント換算し、目標ポイントに達成すれば景品を贈呈。 広報誌発行(3月) 	

2	指導員のスキルアップ	①外部研修への参加 ・運動指導に関する内容や、介護予防事業に関する研修があれば参加する	計画	・関連する研修があれば参加する			
			実績				

⑦令和5年度事業計画（地域包括支援センター）

I スローガン

地域包括ケアシステムの構築

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 地域ケア会議の開催（10回/年） （地域ケア推進型：4、個別課題解決型3、自立支援型：2）	目標	2回	3回	3回	2回
	実績	回 （対目標比： %）	回 （対目標比： %）	回 （対目標比： %）	回 （対目標比： %）
2 認知症サポーター養成講座の開催（6回/年） （絵本教室2、高齢者疑似体験2、認知症サポーター養成講座2）	目標	1回	2回	2回	1回
	実績	回 （対目標比： %）	回 （対目標比： %）	回 （対目標比： %）	回 （対目標比： %）
3 地域との連携（会合等への参加） ・民生委員定例会（8回/年） ・公民館・自治会長会（4回/年） ・在宅福祉員定例会（4回/年）	目標	民生委員定例会（2回/年） 在宅福祉員定例会（4回/年）	民生委員定例会（2回/年） 公民館・自治会長会（2回/年）	公民館・自治会長会（2回/年）	民生委員定例会（4回/年）
	実績	民生委員定例会 回 在宅福祉員定例会 回 （対年間目標比： %）	民生委員定例会 回 公民館・自治会長会 回 （対年間目標比： %）	公民館・自治会長会 回 （対年間目標比： %）	民生委員定例会 回 （対年間目標比： %）
4 実態把握 120件/年	目標	30件	30件	30件	30件
	実績	件 （対目標比： %）	件 （対目標比： %）	件 （対目標比： %）	件 （対目標比： %）
5 介護予防事業促進 請求目標件数 2004件/年	目標	501件	501件	501件	501件
	実績	件 （対目標比： %）	件 （対目標比： %）	件 （対目標比： %）	件 （対目標比： %）
6 認知症予防事業促進 ・DASC 40件 ・タッチパネル実施 60件 ※DASC、タッチパネル （認知症スクリーニングのツール）	目標	DASC 10件 タッチパネル 5件	DASC 10件 タッチパネル 5回	DASC 10件 タッチパネル 45回	DASC 10件 タッチパネル 5回
	実績	・DASC 件 （対目標比： %） ・タッチパネル 回 （対目標比： %）	・DASC 件 （対目標比： %） ・タッチパネル 回 （対目標比： %）	・DASC 件 （対目標比： %） ・タッチパネル 回 （対目標比： %）	・DASC 件 （対目標比： %） ・タッチパネル 件 （対目標比： %）

7 地域サポーター部会の開催 8回/年	目標	2回	2回	2回	2回
	実績	回 (対目標比: %)	回 (対目標比: %)	回 (対目標比: %)	回 (対目標比: %)
8 包括支援センター内の研修 12回/年	目標	3回	3回	3回	3回
	実績	回 (対目標比: %)	回 (対目標比: %)	回 (対目標比: %)	回 (対目標比: %)

Ⅲ 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
1 権利擁護、自立支援のネットワーク構築を強化し、地域包括ケアシステムを推進する。	① 地域ケア会議開催(年10回) 地域ケア推進型:4、自立支援型:2、個別課題解決型:3) ② 地域包括ケアへの社会基盤整備の取組み ・認知症サポーター養成講座等開催(年6回) ③ 地域との連携促進 ・民生委員会参加 8回、 ・公民館・自治会長会 4回、 ・在宅福祉員定例会 4回 ④ 独居・高齢世帯の訪問促進、支援調整 (実態把握、目標120件) ⑤ 自立支援に資するケアマネジメントの支援(ケアマネジャー支援、研修会等) ケアマネジャー研修会 5回 ⑥ サービス事業所の充実に向けた連携 (地域密着型サービスの運営推進会議参加など)	① 地域ケア会議開催(2回) 自立支援型 1回 (準備会 2地区) 個別課題解決型 1回 ② 認知症サポーター養成講座(1回) ③ 地域組織の定例会参加 ・民生委員定例会 2回 ・在宅福祉員定例会 4回 ④ 独居・高齢世帯の実態把握30件(毎月10件)、支援調整、早期介入。 ⑤ ケアマネジャー研修会(1回) 困難ケース支援 ⑥ 地域密着型サービスの運営推進会議の参加。	① 地域ケア会議開催(4回) 地域ケア推進型 2回 (準備会 2地区) 自立支援型 1回 個別課題解決型 1回 ② 認知症サポーター養成講座(2回) ③ 地域組織の定例会参加 ・民生委員定例会 2回 ・公民館・自治会長会 2回 ④ 独居・高齢世帯訪問実施、実態把握。30件(毎月10件)、支援調整、早期介入。 ⑤ ケアマネジャー研修会(1回) 困難ケース支援 ⑥ 地域密着型サービス運営推進会議の参加。	① 地域ケア会議開催(3回) 地域ケア推進型 2回 ② 認知症サポーター養成講座(2回) ③ 地域組織定例会参加 公民館・自治会長会 2回 ④ 独居・高齢世帯訪問実施、実態把握。30件(毎月10件)、支援調整、早期介入。 ⑤ ケアマネジャー研修会(1回) 困難ケース支援 ⑥ 地域密着型サービス運営推進会議の参加。	① 地域ケア会議開催(1回) 個別課題解決型 1回 ② 認知症サポーター養成講座(1回) ③ 地域組織定例会参加 民生委員定例会 4回 ④ 独居・高齢世帯訪問実施、実態把握。30件(毎月10件)、支援調整、早期介入。 ⑤ ケアマネジャー研修会(1回) 困難ケース支援 ⑥ 地域密着型サービス運営推進会議の参加。
	計画	実績			
2 介護予防・日常生活支援総合事業の浸透を図り、介護予防を推進する。	① 介護予防・日常生活支援総合事業の適正な実施 (総合事業マネジメント360件/年、モニタリング・評価等の適時実施)	① 事業対象者の訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 目標 90件(30件/月) ② 指定介護予防マネジメントの訪	① 介護予防・日常生活支援事業対象者の訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 目標 90件(30件/月)	① 介護予防・日常生活支援事業総合事業対象者の訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 目標 90件(30件/月)	① 介護予防・日常生活支援事業総合事業対象者の訪問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 進捗状況確認(月末)。

		<p>②予防給付による指定介護予防支援の適正な実施 (介護予防マネジメント 2040 件/年、モニタリング・評価等の適時実施)</p> <p>③認知症予防事業の推進 (DASC 60 件/年、タッチパネル 80 件/年)</p> <p>④インフォーマルサービス等社会資源の広報・調整 (地域のサロン・地区講座支援、介護予防教室の開催、サポーター部会 8/年、よらいや等介護予防資源の情報提供、包括だより発行 2/年) 包括支援センターの広報活動</p> <p>⑤医療との連携強化 (入院時在宅ケア票送付、主治医へのケアプランの提供等)</p>	実績	<p>問(モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 目標 510 件(170 件/月)</p> <p>③認知症予防事業の推進 (DASC 15 件/3 ヶ月、タッチパネル 5 件/3 ヶ月)</p> <p>④地域でのサロン支援・地区講座支援介護予防教室・社会資源の情報提供調整 地域サポーター部会 2 回 包括だより発行 1 回/6 ヶ月 包括支援センターのチラシ作成</p> <p>⑤入院時ケア情報票の送付 主治医へのケアプランの提供</p>	<p>②指定介護予防マネジメントの訪問 (モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 目標 510 件(170 件/月)</p> <p>③認知症予防事業の推進 (DASC 15 件/3 ヶ月、タッチパネル 5 件/3 ヶ月)</p> <p>④地域でのサロン支援・地区講座支援介護予防教室・社会資源の情報提供調整。 地域サポーター部会 2 回 スーパー、コンビニ、郵便局等へチラシを配布、挨拶まわり</p> <p>⑤入院時在宅ケア情報票の送付 主治医へのプランの提供</p>	<p>②指定介護予防マネジメントの訪問 (モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 目標 510 件(170 件/月)</p> <p>③認知症予防事業の推進 (DASC 15 件/3 ヶ月、タッチパネル 45 件/3 ヶ月)</p> <p>④地域でのサロン支援・地区講座支援介護予防教室・社会資源の情報提供調整 地域サポーター部会 2 回 包括だより発行 1/6 ヶ月 包括チラシ配布業者を適時訪問</p> <p>⑤入院時在宅ケア情報票の送付 主治医へのプランの提供</p>	<p>目標 90 件(30 件/月)</p> <p>②指定介護予防マネジメントの訪問 (モニタリング・評価・プラン作成・サービス担当者会議) 目標 510 件(170 件/月)</p> <p>③認知症予防事業の推進 (DASC 15 件/3 ヶ月、タッチパネル 5 件/3 ヶ月)</p> <p>④地域でのサロン支援・地区講座支援介護予防教室・社会資源の情報提供調整。 地域サポーター部会 2 回 包括チラシ配布業者を適時訪問</p> <p>⑤入院時在宅ケア情報票の送付 主治医へのプランの提供</p>
3	職員のスキルアップ・連携強化を図る。	<p>① 職員のスキルアップ・連携強化(包括内外研修、事例検討会、個人目標作成と振り返り、包括ミーティング)</p> <p>② 介護予防マネジメント点検(内部監査)</p>	計画	<p>① 職員のスキルアップ・連携強化 包括内研修 3 回 包括外研修・適時 事例検討会・適時 包括ミーティング(毎朝)</p> <p>② 介護予防マネジメント点検 全ケースケアプラン確認</p>	<p>① 職員のスキルアップ・連携強化 包括内研修 3 回 包括外研修・適時 事例検討会・適時 包括ミーティング(毎朝)</p> <p>② 介護予防マネジメント点検 全ケースケアプラン確認</p>	<p>① 職員のスキルアップ・連携強化 包括内研修 3 回(包括外研修・適時 事例検討会・適時 包括ミーティング(毎朝))</p> <p>③ 介護予防マネジメント点検 全ケースケアプラン確認</p>	<p>① 職員のスキルアップ・連携強化 包括内研修 3 回 包括外研修・適時 事例検討会・適時 包括ミーティング(毎朝)</p> <p>② 介護予防マネジメント点検 全ケースケアプラン確認</p>
			実績				

⑧令和5年度 事業計画書(居宅介護支援事業所)

I スローガン

利用者、家族様に笑顔と介護保険情報をお届けし 在宅生活を支援します。

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)	
1	ケアプラン担当件数 1.872件/年 (39件/職員1名×4名×12か月)	目標	468件 (156件/月×3月)	468件 (156件/月×3月)	468件 (156件/月×3月)	468件 (156件/月×3月)
		実績	件 (対目標比: %)	件 (対目標比: %)	件 (対目標比: %)	件 (対目標比: %)
2	居宅介護支援事業者と合同研修を通じてケアマネジメントの質の向上を図る (2回/年)	目標	0回	1回	1回	0回
		実績	回	回	回	回

Ⅲ 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
1 質の高いケアマネジメントを行う。	① 事業所内での会議、研修を行う。 ② 外部研修へ積極的に参加する。 ③ 居宅介護支援事業者と合同の事例検討会・研修会等を行う。	① 週1回に居宅会議を行い、各種制度、事例検討、業務内容、新規利用者などについて意見交換や情報共有を行う。 ・包括居宅会議を月1回実施し、情報交換、事例検討など意見交換や情報共有を行う。 ・事例検討会や部署内研修会を実施し、介護支援専門員の資質の向上を図る。 ・ケアプランや記録などを定期的(3か月ごと)に点検、確認を行う事で業務の統一を図り、業務効率と資質の向上を図る。 ②各勉強会・研修会に参加し、介護支援専門員の資質の向上を図る。 ③居宅介護支援事業者(新生ケアサービス居宅介護支援事業所、白鳥ケアサービス居宅介護支援事業所、医療生協介護支援センター、アイビス居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所博愛苑)合同の事例検討会・研修会等を行う。 年2回	① 週1回に居宅会議を行い、各種制度、事例検討、業務内容、新規利用者などについて意見交換や情報共有を行う。 ・包括居宅会議を月1回実施し、情報交換、事例検討など意見交換や情報共有を行う。 ・事例検討会や部署内研修会を実施し、介護支援専門員の資質の向上を図る。 ・ケアプランや記録などを定期的(3か月)に点検、確認を行う事で業務の統一を図り、業務効率と資質の向上を図る。 ②各勉強会・研修会に参加し、介護支援専門員の資質の向上を図る。 ③居宅介護支援事業者(新生ケアサービス居宅介護支援事業所、白鳥ケアサービス居宅介護支援事業所、医療生協介護支援センター、アイビス居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所博愛苑)合同の事例検討会・研修会等を行う。 年2回	① 週1回に居宅会議を行い、各諸制度、事例検討、業務内容、新規利用者などについて意見交換や情報共有を行う。 ・包括居宅会議を月1回実施し、情報交換、事例検討など意見交換や情報共有を行う。 ・事例検討会や部署内研修会を実施し、介護支援専門員の資質の向上を図る。 ・ケアプランや記録などを定期的(3か月)に点検、確認を行う事で業務の統一を図り、業務効率と資質の向上を図る。 ②各勉強会・研修会に参加し、介護支援専門員の資質の向上を図る。 ③居宅介護支援事業者(新生ケアサービス居宅介護支援事業所、白鳥ケアサービス居宅介護支援事業所、医療生協介護支援センター、アイビス居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所博愛苑)合同の事例検討会・研修会等を行う。 年2回	① 週1回に居宅会議を行い、各種制度、事例検討、業務内容、新規利用者などについて意見交換や情報共有を行う。 ・包括居宅会議を月1回実施し、情報交換、事例検討など意見交換や情報共有を行う。 ・事例検討会や部署内研修会を実施し、介護支援専門員の資質の向上を図る。 ・ケアプランや記録などを定期的(3か月)に点検、確認を行う事で業務の統一を図り、業務効率と資質の向上を図る。 ②各勉強会・研修会に参加し、介護支援専門員の資質の向上を図る。 ③居宅介護支援事業者(新生ケアサービス居宅介護支援事業所、白鳥ケアサービス居宅介護支援事業所、医療生協介護支援センター、アイビス居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所博愛苑)合同の事例検討会・研修会等を行う。 年2回
		実績			

2	給付管理件数を増やす。	①地域、福祉施設、医療機関からの信頼に積極的に応える。 ② 市の委託業務を適切に処理する。 ③ 業務改善を行い、効率的に確実な業務を行う。 ④ 加算項目等を的確に把握し、介護報酬の請求に漏れがないか確認する。 ⑤ 地域とのつながりを持ち、情報発信していく	計画	① 地域や関係機関との情報交換を行い、相談や依頼を増やす。 介護支援専門員一人 39 件/月、事業所総数 156 件/月を目指す ② 認定調査業務の受け入れ提出する。1ヶ月5件 ③ 適宜、業務の見直しを行い、法令順守した適切な業務を行う。 ④ 請求時に個別の加算項目を確認する。 ⑤ 地域ケア会議に参加する。 (開催時期未定) ・地域包括支援センターと連携し困難事例に対応する。	① 地域や関係機関と情報交換を行い相談や依頼を増やす。 介護支援専門員一人 39 件/月、事業所総数 156 件/月を目指す ② 認定調査業務の受け入れ提出する。1ヶ月5件 ③ 適宜、業務の見直しを行い、法令順守した適切な業務を行う。 ④ 請求時に個別の加算項目を確認する。 ⑤ 地域ケア会議に参加する。 (開催時期未定) ・地域包括支援センターと連携し困難事例に対応する。	① 地域や関係機関と情報交換を行い、相談や依頼を増やす。 介護支援専門員一人 39 件/月、事業所総数 156 件/月を目指す ② 認定調査業務の受け入れ提出する。1ヶ月5件 ③ 適宜、業務の見直しを行い、法令順守した適切な業務を行う。 ④ 請求時に個別の加算項目を確認する。 ⑤ 地域ケア会議に参加する。 (開催時期未定) ・地域包括支援センターと連携し困難事例に対応する。	① 地域や関係機関と情報交換を行い、相談や依頼を増やす。 介護支援専門員一人 39 件/月、事業所総数 156 件/月を目指す ② 認定調査業務の受け入れ提出する。1ヶ月5件 ③ 適宜、業務の見直しを行い、法令順守した適切な業務を行う。 ④ 請求時に個別の加算項目を確認する。 ⑤ 地域ケア会議に参加する。 (開催時期未定) ・地域包括支援センターと連携し困難事例に対応する。
			実績				

⑨令和5年度年間計画（あそしえA型事業）

I スローガン

利用者が活躍できる職場環境づくり

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
利用率の安定	登録人員目標	10人	10人	10人	10人
	登録人員実績	人 (対目標比：%)	人 (対目標比：%)	人 (対目標比：%)	人 (対目標比：%)

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 利用率の安定	安定した利用率を促すため適時、定期面談等行い心理的援助を行っていく。	計画	① ピアサポーターと利用者との面談を月2回設定し行う。 ② 相談支援事業所との連携を行う	①・②前期計画を継続・振返り。	①・②前期計画を継続・振返り。
		実績			
2 特性に合わせた支援	・利用者の特性に合わせた作業指示 ・作業の範囲拡大のための支援	計画	① 利用者1人で作業が完結できるように、利用者の特性に合わせた作業内容の提示と指示を	①・②前期計画を継続・振返り。	①・②前期計画を継続・振返り。

				行う。 ② 施設内研修を開催する。 (定期1回/月)			
			実績				
3	新規利用者の開拓(あん摩)	あん摩利用者の開拓を行うため、地域サロンなどに参加し、体験会を行う事で、事業を周知し、あん摩利用に繋げていく。	計画	① 近隣地域のサロン等に参加し体験会を行う。 ② 感染症対策を行いながら、可能な限りの宣伝に努める	①・②前期計画を継続・振返り。	①・②前期計画を継続・振返り。	①・②前期計画を継続・振返り。
			実績				
4	人材の育成	利用者一人ひとりの特性に合わせた、適切な支援を提供出来る人材を育成する。	計画	① 研修等への参加を促し伝達研修を実施する。 ② 職員会議を行う(1回/月)	① ②前期計画を継続。	① ②前期計画を継続。	①②前期計画を継続。
			実績				

⑩令和5年度年間計画(あそしえB型事業)

I スローガン

自分らしく過ごせる時間づくり

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
利用率の安定化と向上(登録人員)	目標	10人	10人	10人	10人
	実績	人 (対目標比: %)	人 (対目標比: %)	人 (対目標比: %)	人 (対目標比: %)

III 年間スケジュール

基本方針		重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
1	利用率の安定化と向上	① 各利用者の課題把握、個別支援を実施する。 ② 相談支援事業所、学校等との情報共有、連携を強化する。 ③ 利用者の利用満足度、就労意欲の向上を高めるための取り組みを開催する。	① 各利用者の課題把握、個別支援を実施する。 ② 相談支援事業所等と連携を強化して、新規利用につなげる。 ③ 利用者の利用満足度、就労意欲の向上を高めるための取り組みを開催する。(2ヵ月に1回)	①、②、③、④前期計画を継続・振返り	①、②、③、④前期計画を継続・振返り	①、②、③、④前期計画を継続・振返り

			実績				
2	工賃の向上	①工賃の基盤になる作業の開拓 ②利用者の特性に合わせた作業による作業量の向上	計画	① 芋の加工 ② マルイでの賞味期限チェック ③ ルウでの充填作業 ④ 小麦計量、袋詰め作業 ⑤ 加工品販売（菓子製造）	① 芋の加工 ② マルイでの賞味期限チェック ③ ルウでの充填作業 ④ 小麦計量、袋詰め作業 ⑤ 加工品販売（菓子製造）	① 芋の加工 ② マルイでの賞味期限チェック ③ ルウでの充填作業 ④ 小麦計量、袋詰め作業 ⑤ 加工品販売（菓子製造）	① 芋の加工 ② マルイでの賞味期限チェック ③ ルウでの充填作業 ④ 小麦計量、袋詰め作業 ⑤ 加工品販売（菓子製造など）
			実績				
3	人材の育成	利用者一人ひとりの特性に合わせた、適切な支援を提供出来る人材を育成する。	計画	① 研修等への参加を促し伝達研修を実施する。 ② 職員会議を開催する。（1ヵ月に1回） ③ 個人目標の設定・振り返りチェックシートを活用する。	①・②・③前期計画を継続・振り返り	①・②・③前期計画を継続・振り返り	①・②・③前期計画を継続・振り返り
			実績				

⑪令和5年度事業計画（すまいるステーション ときぞう）

I スローガン

安心して自分らしく成長できる居場所づくり

II 重要経営指標

重要経営指標			第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）	
1	利用率の安定化 （一日当たりの平均利用者数）	目標	放デイ	19.5人	19.5人	19.5人	19.5人
			児童発達	0人	0人	0人	0人
			合計	19.5人	19.5人	19.5人	19.5人
		実績	放デイ				
			児童発達				
			合計				
2	事業収入の確保 （年間4,003万円）	目標	放デイ	12,000,000円	12,100,000円	12,000,000円	11,600,000円
			児童発達	470,000円	450,000円	490,000円	490,000円

		達				
		合計	12,470,000円	12,550,000円	12,490,000円	12,090,000円
	実績	放デイ				
		児童発達達				
		合計				

Ⅲ 年間スケジュール

基本方針		重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)	
1	利用者満足度の向上	①散歩等による体力作り ②社会性の向上 ③生活力の向上 ④楽しみながら成長出来る活動の提供 ⑤高齢者との共生の実現 ⑥満足度アンケート調査による業務改善(年1回) ⑦自己評価による業務改善(年1回) ⑧利用者の家族との交流会及び意見交換会の開催(年1回)	計画	①個々に合わせた運動プログラムを作成し、実施、評価する。 ②利用者に合わせた外出や室内で出来る活動の中に社会性を取り入れる。 ③調理体験や生活の中でのお手伝いを提供する。 ④職員の工夫で作成した玩具を取り入れ、楽しみながら個々に合った成長を促す。 ⑤感染予防の出来る場所での交流が出来る為の方法を考える。	①運動プログラム実施の評価を踏まえ、更新する。 ②公共交通機関を利用した活動を提供する。他事業所との交流活動を実施する。 ③買い物、昼食作り、片付けまでの一連の流れ体験できる活動を提供する。 ④集団での活動提供。活動の中に隠された知育の提供。 ⑤外での活動に高齢者との交流を取り入れる。 ⑧家族交流会及び意見交換会を実施する。	①運動プログラム実施の評価を踏まえ、更新する。 ②利用者に合わせた外出や近隣住民や他部署との交流活動を提供する。 ③調理体験や生活の中でのお手伝いを提供する。 ④集団活動を通してルールを学ぶ遊びの提供を行う。 ⑤高齢福祉部の利用者と畑をし、収穫に向けて苗を植える。 ⑥放課後等デイサービス事業・児童発達支援事業の家族評価表の実施。(11月) ⑦自己評価からの改善事項の拾い出し。(12月)	①運動プログラム実施の評価を踏まえ、更新する。 ②ア 公共交通機関を利用した活動を提供する。他事業所との交流活動を実施する。 イ 卒業生を送る会を実施する。 ③買い物、昼食作り、片付けまでの一連の流れ体験できる活動を提供する。 ④冬の遊びを提供しどんな季節や環境でも活動出来る力をつけるよう支援する。 ⑤畑のお世話の継続及び収穫祭を行う。 ⑦改善計画の策定しホームページに公表する。(1月)
			実績				
2	支援力の向上	①職員1人ひとりが年間目標を設定しそれに向かい実行する。 ②質の高い専門性を身に付ける研修に参加する。 ③充実した会議の実施。	計画	①四半期ごとに設定した個人目標の達成度を評価しステップアップ出来る。 ②必要な研修を受講するとともに、効率的に伝達研修を実施する。 ③職員会議、朝ミーティング等に時間設定を行い充実した時間の使い方をする。朝ミーティングでの意見を残し個別支援計画に反映する。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。
			実績				

⑫令和5年度事業計画(りんく)

I スローガン

利用者が、住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう努める。

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
利用者のそれぞれの状況に即した情報を提供、助言等を行い、相談支援の質を確保のため、担当件数を適切に管理する。	目標	90件	90件	90件	90件
	実績	件 (対目標比：%)	件 (対目標比：%)	件 (対目標比：%)	件 (対目標比：%)

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）	
1 サービスの質の向上	りんくだけで対応せず、基幹相談支援センターや市町村、関係機関と連携をとりチームで関わる仕組みを作る。	計画	① 関係機関との迅速な連携、情報共有の継続	①前期計画を継続	①前期計画を継続	
		実績				
	質の高い相談支援を提供するため、研修等に積極的に参加する。	計画	① 相談支援の充実を図るため連絡会参加（毎月） ② 相談員として必要な知識を得るために研修会に参加する。	第1四半期の計画を継続	第1四半期の計画を継続	第1四半期の計画を継続
		実績				

⑬令和5年度事業計画（生活介護ときぞう）

I スローガン

安心して自分らしく成長できる居場所づくり

II 重要経営指標

重要経営指標		第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1	利用率の安定（契約件数）	人	人	人	人

III 年間スケジュール

基本方針	重点具体策・実施項目 (準備・段取り)	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
1 利用者満足度の向上	①生活力の向上 ②創作活動	計画	①調理体験や生活の中での役割を提供する。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。

		③生産活動 ④高齢者との共生の実現		②季節を感じる事が出来る展示物や利用者の特性に合わせた創作活動を行う。 ③パンの販売を継続して行い、職員や高齢者との交流を図り、社会とのつながりを持つ。 ④高齢福祉部との交流を行う。			
			実績				
2	支援力の向上	①職員1人ひとりが年間目標を設定しそれに向かい実行する。 ②OJTの実施。 ③充実した会議の実施。	計画	①四半期ごとに設定した個人目標の達成度を評価しステップアップ出来る。 ②職員の支援力が向上するようにOJTを行い、個々と特製の理解を深める。 ③職員会議、朝ミーティング等に時間設定を行い充実した時間の使い方をする。朝ミーティングでの意見を残し個別支援計画に反映する。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。	①. ②. ③の実施状況を踏まえ随時、その計画を修正する。
			実績				

⑭令和5年度事業計画（総務部）

I スローガン

「笑顔で、働きやすい職場づくり」を推進する。

II 重要経営指標

重要経営指標			第1四半期 (4~6月)	第2四半期 (7~9月)	第3四半期 (10~12月)	第4四半期 (1~3月)
1	人材確保に向けた積極的求人な行動（12回） （就職フェア・求人説明会・学校関係等）	目標	3回	4回	2回	3回
		実績	(対目標比： %)	(対目標比： %)	(対目標比： %)	(対目標比： %)

2	積極的な広報活動の推進（160回） （広報誌・ホームページ更新・フェイスブックでの情報発信他）	目標	40回	40回	40回	40回
		実績	（対目標比： %）	（対目標比： %）	（対目標比： %）	（対目標比： %）
3	人材育成の充実に向けた各種研修の実施（20回） 制度の見直し・計画策定	目標	5回	5回	5回	5回
		実施	（対目標比： %）	（対目標比： %）	（対目標比： %）	（対目標比： %）

Ⅲ 年間スケジュール

基本方針		重点具体策・実施項目 （準備・段取り）	第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）	
1	働きやすい職場の環境作り	①適切な人材確保に向けた取組 ②適正な人事考課の実施 スキルマップによる評価 ③施設整備の推進 ④鳥取県男女共同参画推進企業認定取得・鳥取県家庭教育推進協力企業認定取得 ⑤鳥取県介護人材育成事業者認定評価取得	計画	①ハローワークへの情報提供 ①就労斡旋に向けた学校訪問、就職フェアへの参加 ②人事考課の適切な実施及びスキルマップによる評価の実施 ③施設の修理箇所の点検及び優先修理の実施 ④⑤各認定取得に向けた事務の実施	②人事考課による賞与支給 スキルマップによる評価の実施	②人事考課による賞与支給 スキルマップによる評価の実施	②人事考課による昇給決定 スキルマップによる評価の実施
			実績				
2	法人の健全経営の推進	①制度改正等に伴う適正な運営 ②法人の課題解決に向けた対応策の策定 ③法人内監査の実施（現金管理・小口現金・個人情報等） ④利用者、家族からの苦情処理の透明化	計画	①評議員会、理事会の開催 ②経営会議・管理者会議の開催 ③法人内監査の適正な実施 ④ご意見、苦情の都度対応	③法人内監査実施	①理事会開催 ③法人内監査実施	①評議員会、理事会の開催 ③法人内監査実施 ④苦情解決処理第三者委員会の実施
			実績				

3	広報活動の充実	①ホームページの工夫充実 ②広報誌の発行（6月・9月・12月・3月） ③各イベントでの地域交流	計画	①ホームページ、ブログの更新による広報活動（通年） ②6月広報誌発行 ③イベント開催に向けて年間計画策定	②9月号広報誌発行 ③感謝祭	②12月号広報誌発行 ③敬老会の開催	②3月号広報誌発行
			実績				
4	人材育成	①各種法人内研修の計画的開催・積極的な外部研修の受講 ②制度改正に伴う研修の開催 ③キャリアパスに連動した研修制度の見直し・計画策定	計画	①食中毒・接遇・熱中症研修 ②制度改正等に即した都度参加 ③研修制度の見直し・計画策定	①認知症対応・コンプライアンス・リスクマネジメント・リーダー・メンタルヘルス研修	①感染予防、口腔・認知症対応・救急蘇生・腰痛予防研修	①高齢者に多い疾患、看取り・虐待研修
			実績				

